97-392
1200600302980
97
392

昭和二年

帝國學士院一覽

（昭和二年四月調）

貴族院
函
号
冊

始

97-392
2006003029
97
392

昭和二年

帝國學士院一覽

（昭和二年四月調）

貴族院
函
号
冊

帝國學士院

帝國學士院一覽

目次

本院會館寫眞　一葉
沿革略　一頁
第一　帝國學士院規程　二五頁
第二　帝國學士院會則　三一頁
第三　各部分科並ニ定員　三六頁
第四　帝國學士院授賞規則　三七頁
第五　恩賜賞ニ關スル決議　四〇頁
第六　貴族院帝國學士院會員議員互選規則　四七頁
第七　貴族院帝國學士院會員議員ノ互選ニ用フル投票用紙投票用封筒及投票函ノ樣式ニ關スル閣令　五五頁
第八　寄附金ヲ以テスル賞ニ關スル決議　五六頁
第九

第十　條件附寄附金ニ關スル決議　五七頁
第十一　藤田男爵奬學費給與ニ關スル決議　五七頁
第十二　末松子爵夫人寄附羅馬法奬勵資金ノ使途ニ關スル決議　五八頁
第十三　松方公爵米壽祝賀記念奬學資金ニ關スル決議　五九頁
第十四　大阪毎日新聞社長本山彦一寄附東宮御成婚記念學術奬勵資金ノ使途ニ關スル決議　六〇頁
第十五　小池厚之助寄附奬學資金ノ使途ニ關スル決議　六一頁
第十六　學術研究費補助ニ關スル決議　六二頁
第十七　學術研究費補助推薦ニ關スル決議　六四頁
第十八　出版ニ關スル決議　六四頁
第十九　帝國學士院紀事及別冊ノ出版ニ關スル決議　六五頁
第二十　學術奬勵金　六七頁
第二十一　役員　七七頁

第二十二　會員及客員　七七頁
第二十三　事務職員　八四頁
第二十四　事業擔當會員囑託員及出版委員　八五頁
第二十五　提出論文　八八頁
第二十六　出版物　一〇一頁
第二十七　授賞事項及當該受賞者　一〇三頁
第二十八　藤田男爵奬學費受費者　一一一頁
第二十九　子爵夫人末松生子羅馬法奬勵奬學品受品者　一一一頁
第三十　補助研究事項　一一二頁
第三十一　東照宮三百年祭記念會ヘ補助推薦ノ研究事項　一一三頁
第三十二　前帝國學士院役員　一一四頁
第三十三　前帝國學士院會員及客員　一一六頁
第三十四　元東京學士會院役員　一三〇頁
第三十五　元東京學士會院會員及客員　一三一頁

第三十六　大正十五年五月十六日授賞式ニ於ケル櫻井院長ノ演說　一三七頁
第三十七　大正七年五月十二日授賞式ニ於ケル穗積院長ノ演說　一四三頁
第三十八　明治四十四年七月五日恩賜賞授與式ニ於ケル菊池院長ノ演說　一五〇頁
第三十九　本院會館工事概要　一五六頁
本院敷地及建物略圖　一葉

帝國學士院一覽

（昭和二年四月調）

第一　沿革略

帝國學士院ハ元東京學士會院ト稱セリ其ノ起源沿革左ノ如シ

明治十一年〇十二月　文部卿西鄕從道當時文部省雇顧問タリシ米人モレー氏ノ建議ニ由リ學士會院ヲ設クルノ必要ヲ認メ乃チ東京學士會院規則大意及選擧案ヲ西周、加藤弘之、神田孝平、津田眞道、中村正直福澤諭吉箕作秋坪ノ七名ニ諮詢シ其ノ協賛ヲ得テ之ヲ創設スルニ至レリ

同　十二年〇一月　文部大輔田中不二麿（文部卿缺員）右西周以下ノ七名ヲ東京學士會院ノ會員ニ選擧シ其ノ報帖ヲ交付シ文部省內修文館ヲ假用シテ東京學士會院ヲ置ク〇四月　東京學士會院規則ヲ定ム其ノ要項ハ敎育ノ事ヲ討議シ學術技藝ヲ評論スルヲ以テ主トシ會員ハ四十名ヲ限リ東京學士會院ニ於テ選擧シ文部卿ノ認可ヲ經ルノ

制ナリ○五月　東京學士會院雜誌ヲ發行ス

同　十三年○九月　東京學士會院ヲ湯島昌平館ニ移ス

同　十四年○四月　東京學士會院ヲ修文館ニ移ス

同　十五年○一月　東京學士會院ヲ再ヒ昌平館ニ移ス○十二月　昌平館類燒ニ罹リ本院會場器具及藏書百七十部ヲ燒失ス尋テ本院ヲ修文館ニ假設ス

同　十七年○十月　東京學士會院ヲ東京教育博物館(上野)ニ移ス

同　十八年○二月　文部卿大木喬任東京學士會院組織大綱ヲ示ス其ノ要旨ハ學藝ノ品位ヲ高クシ以テ教化ノ裨補ヲ圖ルニ在リ會員ハ帝室ノ御選ニ係ル者十五名會員ノ推選ニ係ル者二十五名ヨリ成ル等ナリ○四月　舊規則ヲ廢シ更ニ右大綱ニ基キ會則ヲ定メ同年九月ヨリ實施ス

同　十九年○一月　會員ノ講演ヲ公開ス○十一月　東京學士會院ヲ東京教育博物館構內新築館(上野)ニ移ス

同　二十三年○十月　勅令第二百六十四號ヲ以テ東京學士會院規程ヲ發布セラル○十一月　文部大臣ノ認可ヲ經テ會則ヲ定ム

同　二十八年○三月　勅令第十七號ヲ以テ東京學士會院規程補則ヲ發布セラル

同　三十三年○五月　皇太子殿下御婚儀奉賀ノ爲賀表ヲ捧呈ス

同　三十四年○六月　定期刊行ノ東京學士會院雜誌ヲ廢シ同年七月ヨリ東洋學藝社ト契約シ毎月講演ノ論說及記事等ハ同社ノ雜誌ニ掲載スルコトヽス(後五年ニシテ之ヲ解ク)

同　三十九年○六月　勅令第百四十九號ヲ以テ帝國學士院規程ヲ發布セラル○七月　文部大臣ノ認可ヲ經テ會則ヲ定ム○役員ノ選擧ヲ行ヒ院長ニ加藤弘之、幹事ニ重野安釋、第一部々長ニ穗積陳重、第二部々長ニ男爵菊池大麓當選就任ス○和算史調査ノ件ヲ議決シ同月ヨリ着手ス○十二月　文部大臣ノ認可ヲ經テ會則ヲ改正ス○帝國士學院ハ萬國學士院聯合會ニ加入ス

同　四十年〇四月　會員重野安釋、同男爵菊池大麓、墺國維也納府ニ於ケル第三回萬國學士院聯合會ヘ委員トシテ參列被仰付〇國語調査委員會ノ編輯ニ係ル假名遣及假名字體沿革史料ヲ本院ニ於テ出版スルコトヲ議決シ同月ヨリ着手ス〇七月　出版ニ關スル決議及學術研究費補助ニ關スル決議ヲ議定ス

同　四十年〇十一月　文部大臣ノ認可ヲ經テ會則ヲ追加ス〇出版ニ關スル決議ヲ修正ス〇十二月　帝國學士院紀事出版ニ關スル第二部決議ヲ議定ス

同　四十一年〇六月　伊能忠敬測地事蹟ヲ調査スルコトヲ議決シ同年八月ヨリ着手ス

同　四十二年〇一月　燃黎室記述調査ノ件ヲ議決シ同月ヨリ着手ス〇羅馬法ニ關スル書籍ノ飜譯出版ノ件ヲ議決ス〇三月　假名遣及假名字體沿革史料ノ出版成ル〇四月　哲學字彙刊行ノ件ヲ議決ス〇六月　〇三月　總會ノ決議ニ基キ會員中島力造ヘ本院會員ノ代表者トシテライプチヒ大學創立五百年祝賀式ニ參列ヲ委囑ス〇役員ノ改選ヲ行ヒ院長ニ菊池大麓、幹事ニ宮崎道三郎、第一部々長ニ穗積陳重、第二部々長ニ古市公威當選シ七月就任ス

同　四十三年〇四月　會員櫻井錠二ヲ伊國羅馬府ニ於ケル第四回萬國學士院聯合大會ヘ本院代表委員トシテ參列セシムル件ヲ議決ス〇五月　會員三浦謹之助ヘ本院會員ノ代表者トシテペルリン大學創立百年祝賀式ニ參列ヲ委囑ス〇七月　左ノ御沙汰書ヲ拜受ス

帝國學士院

其院ノ目的ヲ遂行スル爲メ普ク學術ノ研究ヲ奬勵スル旨趣ヲ以テ授賞ノ制ヲ定メントスルノ計畫有之候趣被聞食特ニ賞典資トシテ本年ヨリ十箇年間年々金貳千圓下賜候事

明治四十三年七月五日

宮內省

○十月　文部大臣ノ認可ヲ經テ本院授賞規則ヲ定ム

同　四十四年○二月　恩賜賞ニ關スル決議ヲ議定ス（四月追加議決）○三月法律第三十八號ヲ以テ帝國學士院學術奬勵金特別會計法ヲ發布セラル○勅令第六十九號ヲ以テ帝國學士院學術奬勵金特別會計規則ヲ發布セラル○五月　恩賜賞々牌及同賞記ニ菊花御紋章附着ノ儀ヲ允許セラル○六月　會員大森房吉ヘ本院會員ノ代表者トシテブレスラウ大學創立百年祝賀式ニ參列ヲ委囑ス○七月　初メテ授賞式ヲ行フ（受賞者等別項ニ記ス以下同シ）○十月　男爵三井八郎右衛門及男爵岩崎久彌ヨリ學術研究奬勵ノ爲各十箇年間毎年金壹千圓ツヽ合計金壹萬圓寄附ノ申出アリ之ヲ受諾スルコトヲ議決ス○十一月　出版ニ關スル決議ヲ修正ス○寄附金ヲ以テスル賞ニ關スル決議ヲ議定ス○十二月　帝國學士院紀事出版ニ關スル第二部決議ヲ廢シ更ニ帝國學士院紀事及別冊ノ出版ニ關スル決議ヲ議定ス

同　四十五年　○五月　第二回授賞式ヲ擧行ス○寄附金ヲ以テスル

大正元年

賞ニ關スル決議ヲ修正ス○六月　役員ノ改選ヲ行ヒ院長ニ菊池大麓幹事ニ宮崎道三郎、第一部々長ニ穗積陳重、第二部々長ニ古市公威當選シ七月就任ス○十月　工學博士藥學博士高峯讓吉ヨリ學術研究奬勵ノ爲金五千圓寄附ノ申出アリ之ヲ受諾スルコトヲ議決ス○十二月　男爵住友吉左衞門ヨリ學術研究奬勵ノ爲十箇年間毎年金壹千圓ツヽ合計金壹萬圓寄附ノ申出アリ之ヲ受諾スルコトヲ議決ス

大正二年○四月　會員坪井正五郎ヲ露國聖彼堡得ニ於ケル第五回萬國學士院聯合大會ヘ本院代表委員トシテ參列セシムル件ヲ議決ス○五月　本年度學術研究費補助ノ件ヲ議決ス（以下毎年ノ議決ヲ省略シ補助事項ハ別項ニ掲ク）○七月　第三回授賞式ヲ擧行ス○幹事宮崎道三郎辭任ニ付補缺選擧ヲ行ヒ櫻井錠二當選シ同月就任ス○十二月　古河虎之助ヨリ學術研究奬勵ノ爲十箇年間毎年金壹千圓ツヽ合計金壹萬圓寄附ノ申出アリ之ヲ受諾スルコトヲ議決ス

同　三年○三月　萬國學士院聯合會評議員改選ニ付院長男爵菊池大麓第一部々長穗積陳重ヲ評議員ニ選定ス○五月　本年度學術研究費補助ノ件ヲ議決ス（以下年々同事項ノ議決略ス）○七月　第四回授賞式ヲ擧行ス○十一月　著者名ノ書方ニ關スル件ヲ議決ス○十二月　勅令二百五十八號ヲ以テ帝國學士院會員ハ勅任官ヲ以テ待遇セラルヘキ旨公布セラル

同　四年○六月　役員ノ改選ヲ行ヒ院長ニ菊池大麓幹事ニ櫻井錠二第一部々長ニ穗積陳重第二部々長ニ古市公威當選シ七月就任ス○六月　法律第十二號ヲ以テ帝國學士院學術奬勵金特別會計法ハ大正四年度限リ之ヲ廢止スル旨公布セラル○法律第十三號ヲ以テ帝國學士院ニ於テ學術研究奬勵ノ爲ニ要スル金額ハ之ヲ帝國學士院長ニ交付シ經理ヲ委任スルコトヲ得ヘキ旨公布セラル（施行期大正五年四月一日）○七月　第五回授賞式ヲ擧行ス○十月　男爵藤田平太郎ヨリ學術研究奬勵ノ爲奬學資金トシテ金貳萬圓羅馬法研究出版費トシテ金

貳千圓各寄附ノ申出アリ之ヲ受諾スルコトヲ議決ス○十一月　御即位ノ大禮奉賀ノ爲賀表ヲ捧呈ス○院長菊池大麓本院會員總代幹事櫻井錠二御即位ノ大禮式ニ參列ス○十二月　東照宮三百年祭記念會ヨリ學術研究費ノ補助ヲ要スヘキモノヽ推薦方ノ依賴アリ之ヲ受諾スルコトヲ議決ス（以下毎年推薦ノ事項ハ別項ニ讓ル）

同　五年○四月　文部大臣ノ認可ヲ經テ會則及授賞規則ヲ修正ス○六月　三井合名會社々長男爵三井八郎右衛門ヨリ出版費トシテ金參千圓寄附ノ申出アリ之ヲ受諾スルコトヲ議決ス○山下龜三郎ヨリ學術研究奬勵ノ爲十箇年間毎年金壹千圓宛又ハ他ノ納付方法ニ依リ合計金壹萬圓寄附ノ申出アリ之ヲ受諾スルコトヲ議決ス○臨時學術研究費補助ノ件ヲ議決ス○七月　第六回授賞式ヲ擧行ス○十月　立太子式奉賀ノ爲　天皇陛下並ニ皇太子殿下ニ賀表ヲ捧呈ス

同　六年○二月　故桂公爵記念事業會總代男爵澁澤榮一ヨリ桂學術

奬勵基金貳萬圓寄附ノ旨申出アリ之ヲ受諾スルコトヲ議決ス○藤田男爵奬學費給與ニ關スル決議ヲ議定ス○三月　臨時學術研究費補助ノ件ヲ議決ス○七月　第七回授賞式ヲ擧行ス○十月　院長理學博士男爵菊池大麓薨去セルニ付其ノ補缺選擧ヲ行ヒ法學博士男爵穗積陳重當選シ同月就任ス○故菊池大麓ノ擔當セシ和算史ノ調査ヲ藤澤利太郎ヘ委囑スルコトヲ議決ス○十一月　第一部々長穗積陳重院長ニ就任セルニ付第一部々長ノ補缺選擧ヲ行ヒ井上哲次郎當選シ同月就任ス○大正六年度羅馬法學奬學費(藤田男爵奬學費)給與ノ件ヲ議決ス(以下毎年同事項省略ス)

同　七年○三月　會員藤澤利太郎著「諸外國學士院ノ組織及授賞制」ヲ再版發行ス○四月子爵夫人末松生子ヨリ羅馬法奬勵資金トシテ有價證劵額面金五千百圓寄附致度旨申出アリ之ヲ受諾スルコトヲ議決ス○ロンドンニ於ケル聯合諸國「サイエンティフィック アカデミース」代表者會議ニ本院代表委員トシテ會員櫻井錠二並ニ田中館愛橘ヲ參列セシムル件ヲ議決ス○五月　第八回授賞式ヲ擧行ス○六月役員ノ改選ヲ行ヒ院長ニ穗積陳重幹事ニ櫻井錠二第一部々長ニ井上哲次郎第二部々長ニ古市公威當選シ七月就任ス○七月　子爵夫人末松生子寄附羅馬法奬勵資金ノ使途ニ關スル決議ヲ議定ス○十月　大正七年度採鑛冶金學及關係學科奬勵費(藤田男爵奬學費)給與ノ件ヲ議決ス○大正七年度子爵夫人末松生子羅馬法奬學品贈與ノ件ヲ議決ス(以上二項以下毎年ノ議決ヲ省略ス)○文部大臣ノ認可ヲ經テ會則ヲ修正ス○十月　ロンドン及パリニ於ケル萬國學術研究會議設立ニ關スル會議ニ本院代表委員トシテ會員櫻井錠二、同田中館愛橘參列ス○十二月　臨時學術研究費補助ノ件ヲ議決ス

同　八年○三月　寄附金ヲ以テスル賞ニ關スル決議及學術研究費補助ニ關スル決議ヲ修正ス○五月　皇太子殿下御成年式奉賀ノ爲天皇陛下並ニ皇太子殿下ニ賀表ヲ捧呈ス○ブリユセルニ於ケル萬國學術研究會議第一回總會ニ本院代表委員トシテ會員田中館愛橘

ヲ參列セシムル件ヲ議決ス○大正八年度學術研究費補助ノ件及臨時學術研究費補助ノ件ヲ議決ス○第九回授賞式ヲ擧行ス○六月學術研究會議設立ニ關スル建議書ヲ內閣總理大臣並ニ文部大臣ニ提出ス○パリニ於ケル[ユニオンアカデミック]ノ組織ニ關スル會議ニ本院代表委員トシテ會員高楠順次郎並ニ小野塚喜平次ヲ參列セシムル件ヲ議決ス

同　九年○一月　次ノ御沙汰書ヲ拜受ス

帝國學士院

其院去ル明治四十三年授賞ノ制設定ニ際シ賞典資トシテ十ケ年間年々金貳千圓下賜ノ處成績顯著ニ付大正九年度以降引續十ケ年間年々下賜候事

大正九年一月七日　宮內省

帝國學士院

其院學術研究ノ資トシテ金壹萬圓下賜候事

大正九年一月七日　宮內省

○一月　ブリユセルニ於ケル第一回萬國學士院聯合會會議ニ本院代表委員トシテ會員服部宇之吉並ニ織田萬ヲ參列セシムルノ件ヲ議決ス○二月　帝室制度ノ歷史的研究ヲ本院ノ事業トシテ遂行スル件ヲ議決シ會員岡野敬次郎(主任)三上參次、美濃部達吉ヲ擔當委員ニ選定シ後更ニ服部宇之吉ヲ追加選定ス○五月　第十回授賞式ヲ擧行ス○八月　曩ニ總理大臣並ニ文部大臣ニ建議セル學術研究會議設立ノ件ニ就キ政府當局ニ於テ審議ヲ遂ケ勅令第二百九十七號ヲ以テ其ノ官制ヲ制定公布セラル○十二月　學術研究會議第一回總會ヲ文部省內ニ招集シ會長及副會長ノ選擧ヲ行ヒタル結果會長ニ古市公威副會長ニ櫻井錠二當選院長男爵穗積陳重ハ會長古市公威ニ對シ學術研究會議ニ關スル事務ノ引繼ヲ了ス

同　十年○一月　次ノ御沙汰書ヲ拜受ス

帝國學士院

其院學術研究ノ資トシテ金壹萬圓下賜候事

宮内省

大正十年一月十日

○ブリユセルニ於ケル第二回萬國學士院聯合會會議ヘ本院代表委員トシテ會員岡松參太郎並ニ三上參次ヲ參列セシムル件ヲ議決ス

○五月　第十一回授賞式ヲ擧行ス　○六月役員ノ改選ヲ行ヒ院長ニ穗積陳重幹事ニ櫻井錠二、第一部々長ニ井上哲次郎、第二部々長ニ藤澤利喜太郎當選シ七月就任ス○九月　皇太子殿下海外御巡遊ヨリ御歸還奉賀ノ爲賀表ヲ捧呈ス○十月　三菱合資會社社長男爵岩崎小彌太ヨリ學術研究奬勵ノ爲賞典資トシテ大正十年以降十箇年間每年金壹千圓ヲ議決ス○三井家總代男爵三井八郎右衛門ヨリ學術研究奬勵ノ爲第二部ニ屬スル賞典資トシテ大正十年以降十箇年間每年金壹千圓ツヽ合計金壹萬圓寄附ノ申出アリ之ヲ受領スル事ヲ議決ス

同　十一年○一月　次ノ御沙汰書ヲ拜受ス

其院學術研究ノ資トシテ金壹萬圓下賜候事

帝國學士院

大正十一年一月十二日

宮内省

○ブリユセルニ於ケル第三回萬國學士院聯合會會議ヘ本院代表委員トシテ會員井上哲次郎並ニ美濃部達吉ヲ參列セシムル件ヲ議決ス○二月　白耳義學士院創立百五十年祝賀式ヘ本院代表委員トシテ會員井上哲次郎、中村精男、平山信、並ニ美濃部達吉ヲ參列セシムル件ヲ議決ス○三月　東京市上野公園ニ於テ開催セル平和記念東京博覽會ニ各授賞關係品其他ノ參考品ヲ出品ス○四月　松方公爵米壽祝賀會發起人總代法學博士男爵阪谷芳郎並ニ平山成信ヨリ松方公爵米壽祝賀記念奬學資金(後拾八萬圓ト決定)寄附ノ申出アリ之ヲ受領スルコトヲ議決ス○松方公爵米壽祝賀記念奬學資金ノ使用方法ニ關スル決議條項ヲ議決ス○五月　第十二回授賞式ヲ擧行ス

○七月　財團法人原田積善會理事原田二郎ヨリ學術研究奬勵ノ爲

大正十二年以降壹百箇年間毎年金壹萬圓ツヽ、合計金壹百萬圓寄附ノ申出アリ之ヲ受領スルコトヲ議決ス○十月　男爵住友吉左衛門ヨリ學術研究奬勵ノ爲大正十一年以降十箇年間毎年金壹千圓ツヽ、合計金壹萬圓寄附ノ申出アリ之ヲ受領スルコトヲ議決ス○十一月

來朝中ノ獨逸理學者アインシタイン博士歡迎會ヲ植物園ニ於テ擧行シ(歡迎の辭)ヲ贈呈ス○十二月　ブリユセルニ於ケル第四回萬國學士院聯合會々議並ニ第五回萬國史學會々議ヘ本院代表委員トシテ會員上田萬年並ニ立作太郎ヲ參列セシムル件ヲ議決ス

同　十二年○一月　次ノ御沙汰書ヲ拜受ス

帝國學士院

其院學術研究ノ資トシテ金壹萬圓下賜候事

大正十二年一月十一日　宮內省

○高峰保全株式會社取締役鹽原又策ヨリ學術研究ノ賞又ハ資ノ基金トシテ大正十二年以降五箇年間毎年金五千圓ツヽ、合計金貳萬五千圓ヲ、又三共株式會社取締役鹽原又策ヨリ三箇年ニ渉リ金貳千圓寄附ノ申出アリ之ヲ受領スル事ヲ議決ス○二月　男爵古河虎之助ヨリ學術研究奬勵ノ爲大正十二年以降十箇年間毎年金壹千圓ツヽ、合計金壹萬圓寄附ノ申出アリ之ヲ受領スルコトヲ議決ス○三月寄附金ヲ以テスル賞ニ關スル決議、松方公爵米壽祝賀記念奬學資金ニ關スル決議及學術研究費補助ニ關スル決議ヲ修正ス○四月　松方公爵米壽祝賀會發起人總代平山成信ヨリ松方公爵米壽祝賀記念奬學資金ノ利子ニ加ヘ奬學ノ目的ニ使用スル爲金五千四百五拾四圓寄附ノ申出アリ之ヲ受領スルコトヲ議決ス○山下龜三郎ヨリ國際關係ノ學事費ニ充ツル爲メ大正十二年以降十箇年間毎年金壹千圓ツヽ、合計金壹萬圓寄附ノ申出アリ之ヲ受領スルコトヲ議決ス

○五月　第十三回授賞式ヲ擧行ス○松方公爵米壽祝賀會殘務整理委員男爵阪谷芳郎ヨリ同祝賀記念奬學資金ノ一部トシテ金五百六拾圓寄附ノ申出アリ之ヲ受領スルコトヲ議決ス○九月　大震火災

ノ爲本院會議室ノ一部ヲ日本赤十字社福島支部救護班執務ノ爲提供シ尚罹災者收容ニ充ツ○十一月　大阪毎日新聞社長本山彦一ヨリ東宮御成婚記念學術奬勵資金トシテ大正十三年以降十箇年間毎年金壹萬圓ツヽ合計金拾萬圓寄附ノ申出アリ之ヲ受領スルコトヲ議決ス○十二月　寄附金ヲ以テスル賞ニ關スル決議ヲ修正ス○大阪毎日新聞社長山本彦一寄附東宮御成婚記念學術研究奬勵資金ノ使途ニ關スル條項ヲ議決ス○ブリユセルニ於ケル第五回萬國學士院聯合會々議ヘ本院代表委員トシテ會員松本亦太郎並ニ織田萬ヲ參列セシムル件ヲ議決ス

同　十三年○一月　次ノ御沙汰書ヲ拜受ス

帝國學士院

其院學術研究ノ資トシテ金壹萬圓下賜候事

大正十三年一月九日

宮內省

○第五回萬國學士院聯合會々議本院代委員織田會員後任トシテ在白日本大使安達峰一郎ニ參列ヲ委囑スヘキ件ヲ議決ス○一月　東宮殿下御慶事奉祝ノ爲　天皇陛下並ニ東宮殿下ニ賀表ヲ捧呈ス

○五月　第十四回授賞式ヲ擧行ス○六月　役員ノ改選ヲ行ヒ院長ニ穗積陳重幹事ニ櫻井錠二第一部々長ニ井上哲次郎第二部々長ニ佐藤三吉當選シ七月就任ス○十二月　米國人メンデンホールヨリ學術奬勵資金トシテ米貨二千五百弗寄附ノ申出アリ之ヲ受領スルコトヲ議決ス

同　十四年○一月　ブリユセルニ於ケル第六回萬國學士院聯合會々議ヘ本院代表委員トシテ會員福田德三並ニ在歐會員織田萬ヲ派遣シ更ニ在白日本大使安達峰一郎ニ本院代表委員ヲ委囑シ右會議ヘ參列ヲ請フヘキ件ヲ議決ス○次ノ御沙汰書ヲ拜受ス

帝國學士院

其院學術研究ノ資トシテ金壹萬圓下賜候事

大正十四年一月二十一日

宮內省

○四月　左ノ三件ヲ議決ス

會員ノ定員六十人ヲ百人トシ第一部五十人第二部五十人トスルコト

各部ニ於テ分科ヲ設クルコト

分科ノ數及種類ハ各部ニ於テ之ヲ定メ總會ノ承認ヲ經ルコト

○會員推選ニ關スル臨時手續ノ件ヲ議決ス○歐文記事出版ノ新計畫ニ關スル件ヲ議決ス○五月　第一部及ヒ第二部ニ分科設置並ニ其ノ定員ノ件ヲ議決ス○會員推選ニ關スル臨時手續法改正ノ件ヲ議決ス○小池厚之助ヨリ學術奬勵基金トシテ金參拾萬圓寄附ノ申出アリ之ヲ受領スヘキコトヲ議決ス、尚同人ヨリ金壹萬四千七百貳拾圓餘ヲ學術奬勵費トシテ追加寄附ノ申出アリ之ヲ受領スルコトヲ同十五年四月議決ス○勅令第二百號ヲ以テ帝國學士院規程改正ノ件ヲ公布セラル○文部大臣ノ認可ヲ經テ會則ヲ改正ス○第十五回授賞式ヲ擧行ス○勅令第二百三十三號ヲ以テ貴族院帝國學士院會員議員互選規則ヲ公布セラル○七月　紀事及別冊出版ニ關決議修正ノ件ヲ議決ス○八月　閣令第五號ヲ以テ貴族院帝國學士院會員議員ノ互選投票用紙、投票用封筒及投票函ノ樣式ニ關スル件ヲ公布セラル○勅令第二百七十三號ヲ以テ帝國學士院規程改正ノ件ヲ公布セラル○九月　露國學士院創立二百年記念式ヘ本院代表委員トシテ會員福田德三ヲ派遣スヘキコト及同學士院ヘ祝文ヲ贈呈スヘキ件ヲ議決ス○小池厚之助寄附學術奬勵金ノ使途ニ關スル條項ヲ議決ス

同　十四年○九月　貴族院帝國學士院會員議員ノ第一回互選ヲ行ヒ第一部會員井上哲次郎、小野塚喜平次、第二部會員藤澤利喜太郎、田中館愛橘ノ四名當選十月十日各右議員ニ勅任セラル○十月　極東熱帶醫學會第六回總會海外參列者歡迎午餐會ヲ上野精養軒ニ於テ擧行ス○院長穗積陳重辭任ニ付キ同會員多年院長在職中ノ功勞ニ酬ユル爲メ感謝文ヲ贈呈スヘキコトヲ議決ス○十一月　院長辭任ニ

因リ補缺選擧ヲ行ヒ會員岡野敬次郎當選シ同月就任ス○十二月ブリユセルニ於ケル第七回萬國學士院聯合會々議ヘ本院代表委員トシテ會員瀧精一ヲ派遣スヘキコトヲ議決ス○學術研究費補助ニ關スル決議、松方公爵米壽祝賀記念奬學資金ニ關スル決議及大阪毎日新聞社長本山彦一寄附東宮御成婚記念學術奬勵資金ノ使途ニ關スル決議修正ノ件ヲ議決ス○サー、チヤーレス、エリオツトヲ客員ニ推擧ス

大正十五年○一月　次ノ御沙汰書ヲ拜受ス

帝國學士院

昭和元年

其院學術研究ノ資トシテ金壹萬圓下賜候事

宮内省

大正十五年一月十二日

○ブリエセルニ於ケル第七回萬國學士院聯合會々議ヘ本院代表委員トシテ會員在白日本大使安達峰一郎ヲ參列セシムヘキ件ヲ更ニ議決ス○二月　院長岡野敬次郎薨去セルニ因リ補缺選擧ヲ行ヒ會員幹事櫻井錠二當選シ同月就任ス○岡野節ヨリ學術奬勵資金トシテ金五千圓同追加參拾貳圓寄附ノ申出アリ之ヲ受領スヘキコトヲ議決ス○三月　幹事櫻井錠二院長ニ就任ノ結果補缺選擧ヲ行ヒ姉崎正治當選シ同月就任ス○來朝中ノ佛國醫科學士院幹事シヤルル、アシヤル博士並ニソルボヌ大學教授フシエ博士歡迎晩餐會ヲ擧行ス　○五月　第十六回授賞式ヲ擧行ス○九月　新築會館落成セシニヨリ移轉ス○十月　高松宮家ヨリ有栖川宮記念奬學資金受領候補者ノ選定方御依賴アリ之ヲ受諾スルコトヲ議決ス○小津清左衛門ヨリ學術奬勵金トシテ金五千圓寄附ノ申出アリ之ヲ受領スヘキコトヲ議決ス○十一月　第三回汎太平洋學術會議海外參會者歡迎午餐會ヲ上野精養軒ニ於テ擧行シ院長幹事ノ案内ニテ一同會館ヲ參觀ス○第一部々長井上哲次郎會員ヲ辭任ス○十二月　第一部々長ノ補缺選擧ヲ行ヒ會員富井政章當選シ同月就任ス○ブリユセルニ於ケル第八回萬國學士院聯合會々議ヘ本院代表委員トシテ會員

土方寧ヲ派遣シ尚在白會員安達峰一郎ニ本院代表委員ヲ委囑シ右會議ヘ參列ヲ請フヘキコトヲ議決ス○貴族院帝國學士院會員議員井上哲次郎辭任ニ因リ其ノ補缺選擧ヲ行ヒ會員上田萬年當選シ同月二十一日同議員ニ勅任セラル

昭和二年○二月　次ノ御沙汰書ヲ拜受ス

帝國學士院

其院學術研究ノ資トシテ金壹萬圓下賜候事

昭和二年二月二十二日　宮內省

○三月　ルヴン大學創立五百年記念祭ヘ本院代表委員トシテ會員土方寧ニ參列ヲ委囑シ尚祝文ヲ贈呈スヘキコトヲ議決ス○ロード、リスター誕生百年祭ニ祝電ヲ贈呈スヘキコトヲ議決ス

第二　帝國學士院規程

勅令第百四十九號（明治三十九年六月十二日）（大正十五年五月改正同九月改正）

帝國學士院規程

第一條　帝國學士院ハ文部大臣ノ管理ニ屬シ學術ノ發達ヲ圖リ敎化ヲ裨補スルヲ以テ目的トス

第二條　帝國學士院會員ハ帝國學士院ニ於テ碩學中ヨリ推選シ勅旨ヲ以テ之ヲ命ス

第三條　外國人ニシテ帝國ニ於ケル學術ノ發達ニ關シ特別ノ功勞アル者ハ帝國學士院ニ於テ之ヲ客員ト爲コトヲ得

第四條　帝國學士院ハ左ノ二部ニ分チ會員ハ各專攻ノ學科ニ依リテ之ニ分屬ス

第一部　文學及社會的諸學科

第二部　理學及其ノ應用諸學科

第五條　帝國學士院會員ノ定員ハ百人トス

第六條　帝國學士院ハ會議ヲ開キ學術及教化ニ關スル事項ヲ審議ス會議ハ總會及部會トス

第七條　帝國學士院會員ハ專攻ノ學科ニ付論文ヲ提出シ又ハ報告ヲ爲スモノトス

第八條　帝國學士院ハ學術ニ關スル論文、考案資料等ヲ募集スルコトヲ得

第九條　帝國學士院ハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ外國ニ於ケル學術上ノ團體ト共同シテ研究ヲ爲シ又ハ其ノ會員トナルコトヲ得

第十條　文部大臣ハ學術及教化ニ關スル事項ニ付帝國學士院ニ諮詢スルコトヲ得

第十一條　帝國學士院ハ少クトモ毎年一回院務ニ關スル報告書ヲ文部大臣ニ提出スヘシ

第十二條　帝國學士院ニ院長一人、幹事一人及部長二人ヲ置ク

院長及幹事ハ總會ニ於テ部長ハ部會ニ於テ會員中ヨリ之ヲ互選シ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ

院長幹事及部長ノ任期ハ三年トス

第十三條　院長ハ院務ヲ總理シ總會ニ於テ其ノ議長ト爲ル

院長事故アルトキハ幹事其ノ職務ヲ代理シ院長及幹事共ニ事故アルトキハ院長ノ指名シタル會員其ノ職務ヲ代理ス

幹事ハ院長ノ指揮ヲ受ケ院務ヲ掌理ス

部長ハ院長ノ指揮ヲ受ケ部務ヲ掌理シ部會ニ於テ其ノ議長ト爲ル

第十四條　院長幹事及部長ニハ手當ヲ支給スルコトヲ得

第十五條　滿六十歲以上ノ會員ニハ特ニ年金ヲ給スルコトヲ得

第十六條　帝國學士院ニ書記四人ヲ置キ文部省所屬ノ判任官ヲ以テ之ニ充ツ

書記ハ院長幹事部長ノ命ヲ受ケ庶務ニ從事ス

書記ニハ手當ヲ給スルコトヲ得

第十七條　學術上ノ調査ノ爲會員中ニ於テ擔當者ヲ定メタルトキハ手當ヲ給スルコトヲ得

第十八條　帝國學士院ハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ會則ヲ定ムルコトヲ得

附　則

第十九條　東京學士會院規程及東京學士會院規程補則ハ之ヲ廢止ス

第二十條　本令施行ノ際東京學士會院會員及客員タル者ハ本令ノ規定ニ依リ帝國學士院會員及客員タル者トス

第二十一條　東京學士會院規程第五條ニ依リテ年金ヲ受クル者ハ本令施行ノ後仍同額ノ年金ヲ受ク

第二十二條　本令ノ規定ニ依リ帝國學士院長ノ就任スルニ至ル迄ハ元東京學士會院會長ニ於テ幹事及部長ノ就任スルニ至ル迄ハ元東京學士會院幹事ニ於テ其ノ職務ヲ行フヘシ

（參照）

勅令第二百六十四號（明治二十三年十月二十五日官報）

東京學士會院規程

第一條　東京學士會院ハ學藝ノ品位ヲ高クシ以テ敎化ノ裨補ヲ謀ランカ爲ニ設クル所ニシテ文部大臣ノ管轄ニ屬ス

第二條　東京學士會院ハ者德碩學ノ中ヨリ選出セラレタル會員ヲ以テ組織ス其ノ選出ノ方法及人員左ノ如シ

一　帝室ノ特選ニ依ル會員十五名

一　會員ノ推選ニ依ル會員二十五名

會員ノ推選ニ依ルモノハ文部大臣ノ認可ヲ經ルヲ要ス

會員ハ終身トス

第三條　東京學士會院會員ハ各自專攻ノ學科ニ就キ論說ヲ述ヘ又學藝及敎化ニ關スル事項ニ就キ報告スルモノトス

第四條　東京學士會院ハ學藝及敎化ニ關スル事項ニ就キ文部大臣ヨリ諮問アルトキハ審議復申スルモノトス

又會員各自意見アルトキハ會院ニ於テ審議シ文部大臣ニ開陳スルコトヲ得

第五條　東京學士會院會員滿六十歲以上ノ者十名以內ヲ限リ特ニ各年金三百圓賜フコトアルヘシ

第六條　東京學士會院ニ會長一人幹事二人ヲ置ク

會長幹事ハ會員ノ互選ヲ以テ文部大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ定ム其任期ハ各一年トス但再選セラルルコトヲ得

第七條　會長ハ文部大臣ノ監督ヲ受ケ院務ヲ統理シ議事アルトキハ議長ノ任ニ當ルモノトス會長事故アルトキハ幹事ノ內一人ヲ指定シテ其任務ヲ代理セシム

幹事ハ會長ヲ補佐シテ院務ヲ掌理ス

第八條　削除（二十六年勅令第五十九條ヲ以テ削除）

第九條　東京學士會院ニ書記二人ヲ置キ文部屬ヲ以テ之ニ兼補ス書記ハ會長及幹事ニ屬シテ庶務ニ從事ス

第十條　東京學士會院ハ文部大臣ノ許可ヲ得テ會則ヲ設クルコトヲ得

勅令第十七號（明治二十八年三月八日官報）

東京學士會院規程補則

外國ノ者德碩學ニシテ特ニ帝國ニ對シ功勞アル者ハ會員ノ推選ニ依リ文部大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ客員トナ

スコトヲ得

勅令第二百號（大正十四年五月二十一日官報）

（參照）明治三十九年六月十三日公布勅令第百四十九號帝國學士院規程抄錄

第五條　帝國學士院會員ノ定員ハ六十人トス

勅令第二百七十三號（大正十四年九月二日官報）

（參照）明治三十九年六月十三日公布勅令第百四十九號帝國學士院規程抄錄

第十三條　第二項

院長事故アルトキハ幹事其ノ職務ヲ代理ス

第三　帝國學士院會則

（明治三十九年七月一日議決同月四日文部大臣認可／同年十二月十二日改正議決同月十九日文部大臣認可／同四十年十一月十二日追加議決同月廿二日文部大臣認可／同五年三月十二日修正議決四月十一日文部大臣認可／大正七年十二月十二日修正議決同月廿八日文部大臣認可／大正十四年五月十二日修正議決同月廿九日文部大臣認可）

第一條　帝國學士院會員ノ定員ハ各部五十人トス

各部ニ分科ヲ設クルコトヲ得

分科ノ種類及其ノ定員ハ各部ニ於テ之ヲ定メ總會ノ承認ヲ經ヘシ

第二條　會員ヲ推選セントスルトキハ當該部會ニ於テ投票ヲ以テ先ツ候補者ヲ豫選シ其ノ最多數ヲ得タル者三人ヲ以テ候補者トス

候補者ニ缺員ヲ生シタル場合ニ於テハ補缺豫選ヲ行フ

候補者ニ付キ當該部會ニ於テ決選投票ヲ行ヒ外國ニ在リテ投票ヲ爲サヽル者ヲ除キタル部會員三分ノ二以上ノ多數ヲ得タル者ヲ當選者トシ總會ノ認可ヲ經テ之ヲ會員ニ推選ス

前項ノ多數ヲ得タル者ナキトキハ更ニ決選投票ヲ行ヒ尙ホ當選者ヲ得ルコト能ハサル場合ニ於テハ候補者ノ改選ヲ行フ

第三條　候補者ノ豫選及會員ノ推選ハ少クトモ三週間以前院長ヨリ之ヲ會員ニ通知ス

第四條　客員ヲ推擧セントスル者ハ當該部會員五人以上ノ賛成ヲ得テ部會ニ發議スルコトヲ得

客員ノ選定ニ關シテハ第二條第三項及第三條ノ規定ヲ準用ス

第五條　院長幹事及部長ノ選擧ハ最多數ノ投票ヲ得タル者ヲ以テ當選者トス

院長幹事及部長ハ六月ニ之ヲ選擧シ七月ニ至テ就任ス但シ六月ニ選擧ヲ行フコト能ハサルトキハ遞次之ヲ繰延フルコトヲ得此場合ニ於テハ後任者ノ就任スルニ至ル迄仍前任者ニ於テ其ノ職務ヲ取扱フ後任者ノ任期ハ其ノ就任ノ時期ニ拘ラス七月ヨリ之ヲ起算ス

第六條　投票ハ總テ無記名トス

病氣其ノ他ノ事故ニ依リ出席スルコト能ハサル者ハ封書ヲ以テ投票スルコトヲ得

第七條　第二條第一項及第五條第一項ノ場合ニ於テ投票同數ナルトキハ年長者ヲ以テ當選者トス

第八條　總會ハ院長部會ハ部長之ヲ召集ス

通常總會ハ毎月一回之ヲ開ク但シ八九兩月ハ開會セス

院長ノ見込ニ依リ又ハ會員五人以上ノ請求アルトキハ臨時總會ヲ開クコトヲ得

第九條　總會及部會ハ在東京會員ノ三分一以上ニ相當スル出席員アルニアラサレハ議決ヲ爲スコトヲ得ス

議決ハ出席員ノ過半數ニ依ル

第十條　總會及部會ノ議長ハ議決ノ數ニ加ハラス但シ可否同數ナルトキハ議長之ヲ決ス

第十一條　帝國學士院規程第七條ノ論文ノ提出及報告ハ總會又ハ部會ニ於テ之ヲ爲スヘシ

帝國學士院會員ニ非サル者ノ論文又ハ報告ハ會員之ヲ紹介シテ總

會又ハ部會ニ提出スルコトヲ得

論文及報告ハ之ヲ印刷シテ學者、學會、學校等ニ配付スルコトアルヘシ

論文及報告ノ會議ハ傍聽ヲ許スコトアルヘシ

第十二條　總會又ハ部會ノ議決ニ依リ講演ヲ公開スルコトアルヘシ

第十三條　部ハ總會ノ認可ヲ經テ部則ヲ定ムルコトヲ得

第十四條　部會ノ開會及議決ハ部長ヨリ之ヲ院長ニ報告スヘシ

第十五條　院長ハ毎年一回總會ニ於テ前一年間ノ院務ノ要項ヲ會員ニ報告スヘシ

部長ハ毎年一回前一年間ノ部務ノ要項ヲ院長ニ報告スヘシ

第十六條　部長事故アルトキハ會員ノ一人ニ其ノ職務ヲ委託スルコトヲ得

附　則

第十七條　各部ニ於ケル會員ノ數四十五人ニ充ツルマテハ第二條及第三條ノ規定ニ依ラス總會ニ於テ會員ニ推選スヘキ者ヲ選定ス

會則第九條ニ關スル決議　（大正元年十月十二日總會議決）

帝國學士院會則第九條第一項ハ總會又ハ部會ヲ開キ諸般ノ報告ヲ受ケ及學術上ノ論文ノ提出アルヲ妨ケス

會則第十一條第二項ニ關スル決議　（大正五年三月十二日總會議決）

會則第十一條第二項ノ場合ニ於テハ本人ヲシテ論文又ハ報告ノ說明ヲ爲サシムルコトヲ得

（參照）

東京學士會院會則（明治二十三年十一月九日議決同月廿六日文部大臣認可）

第一條　會長幹事ノ選擧並ニ會員ノ推選ハ投票ヲ以テス投票同數ナレハ年長者ヲ取ル

第二條　會長幹事ハ毎年十二月ニ於テ改選シ翌年一月ヨリ就職スルモノトス

第三條　會長幹事ハ發案討論ヲ爲スコト都テ會員ニ同シ

會長幹事議長ノ任ニ當ルトキハ可否ノ數ニ加ハラス但可否同數ノ場合ニ於テハ議長之ヲ決ス

第四條　會長幹事ノ選擧並ニ會員ノ推選ハ在京會員ノ投票ヲ以テス但缺席者モ之ニ加ヘルモノトス

第五條　會員ノ推選ハ先ツ在京會員ニテ投票シ其ノ投票數多數ノ三名ヲ取テ再ヒ投票シ最多數ヲ得タル者一人ヲ以テ當選者ト定ム但最多數ト雖投票數五點以下ナルトキハ之ヲ棄却シ更ニ改選ヲ爲ス

第六條　會員中右三名共ニ不適任ト認ムルカ若クハ其ノ學力人物等ヲ聞知セサルトキハ投票ヲ辭スル事ヲ得

第七條　投票ヲ辭シタル會員ノ數在京會員ノ三分ノ一以上ニ登ルトキハ選擧ヲ行ハス更ニ改選ヲ爲ス

第八條　當選者會員タルコトヲ辭スル者アルトキハ更ニ改選ヲ爲ス

第九條　議事ノ可否ヲ決スルハ多數ニ依ル但在京會員二分ノ一以上出席セサルトキハ可否ヲ決セス

第十條　會日ニハ講筵ヲ開キ公衆ノ參聽ヲ許スコトアルヘシ

第十一條　毎年一月ノ會日ニ於テ前會長前年ノ院務ノ要項ヲ報告ス

第十二條　會員ノ坐順變換ハ年二期(一月、七月)トシ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム但新任者ハ該一期間末坐トス

第十三條　通常毎月(八九兩月ヲ除ク)第二日曜日ヲ以テ會日ト定ム但事宜ニヨリ會日ヲ變更シ或ハ臨時會ヲ開クコトアルヘシ

第十四條　演述ノ筆記並ニ院務ノ要項等ハ時々之ヲ刊行シテ會員ニ頒チ併セテ世ニ公ニス

第四　各部分科並ニ定員

第一部

第一分科——法律學、政治學、經濟學　定員　二十五人

第二分科——哲學、史學、文學　定員　二十五人

第二部

第一分科——星學　定員　七人

第二分科——物理學、化學　定員　十一人

第三分科——地球物理學、地質學　定員　八人

第四分科——生物學、醫學　定員　十六人

第五分科——工學、農學　定員　八人

第五　帝國學士院授賞規則

(明治四十三年十月十二日議決)
(同月廿六日文部大臣認可)
(大正五年三月十二日修正議決)
(同年四月十一日文部大臣認可)

第一條　帝國學士院ハ學術ノ研究ヲ奬勵スル爲本則ノ定ムル所ニ依リ賞ヲ授ク

第二條　賞ハ特定ノ論文著書其ノ他特種ノ研究ニシテ其ノ成績卓絶ナルモノニ對シテ之ヲ授ク

第三條　賞ハ賞牌又ハ賞金トス但シ賞牌及賞金ハ併セテ之ヲ授クル

コトヲ得

賞牌ノ制式ハ別ニ之ヲ定ム

第四條　賞ハ帝國學士院會員ニ非サル者ニ之ヲ授ク

第五條　賞ヲ授クルハ推薦又ハ募集ニ依ル

第六條　帝國學士院會員授賞ノ推薦ヲ爲サムトスルトキハ毎年十一月其ノ所屬ノ部會ニ其ノ提議ヲ爲スヘシ但シ十一月部會ヲ開カサルトキハ遞次繰延フルコトヲ得

前項ノ提議ニハ當該部會員三人以上ノ賛成アルコトヲ要ス

第七條　部會ニ於テ論文等ヲ審査ニ付スヘキモノト議決シタルトキハ審査委員ヲ定ムヘシ

部會ニ於テ必要ト認ムルトキハ他ノ部ニ屬スル會員ニ審査委員ヲ囑託スルコトヲ得

第八條　審査委員ノ議決ハ多數決ニ依ル但シ審査委員ハ部會ニ於テ各其ノ意見ヲ述フルコトヲ妨ケス

第九條　審査委員ハ書面ヲ以テ審査ノ經過及結果ヲ部會ニ報告スヘシ

第十條　部會ニ於ケル擬賞ノ議決ニハ投票總數三分ノ二以上ノ賛成アルコトヲ要ス

第十一條　前條ノ規定ニ依リ擬賞ノ議決アリタルトキハ部長ハ審査報告書其ノ他擬賞ニ關スル一切ノ事項ヲ總會ニ提出シ其ノ議決ヲ經ヘシ

第十二條　擬賞ノ議決ヲ爲スニハ部長又ハ院長ニ於テ少クトモ三週間以前會議ノ目的ヲ會員ニ通知スヘシ

第十三條　擬賞ノ議決ニ付テハ投票ハ總テ無記名トス

病氣其ノ他ノ事故ニ因リ出席スルコト能ハサル者ハ封書ヲ以テ投票スルコトヲ得

第十四條　論文ヲ募集スル場合ニ於テハ其ノ都度部會ニ於テ募集ニ關スル事項ヲ定メ總會ノ議決ヲ經ヘシ

總會ノ議決アリタルトキハ帝國學士院募集ノ條件ヲ公示ス

第十五條　論文ノ募集了リタルトキハ部會ニ於テ審査委員ヲ定ムヘシ

第十六條　第七條第二項及第八條乃至第十三條ノ規定ハ論文募集ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十七條　賞ヲ受ケタル者ハ受賞ノ目的タル論文又ハ著書ニ其ノ旨ヲ表示スルコトヲ得

第十八條　賞ヲ授クヘキ者授賞推薦ノ提議アリタル後又ハ論文ノ募集ニ應シタル後死亡シタル場合ニ於テハ帝國學士院ハ授賞ノ旨ヲ公示シ且其ノ者ニ授クヘキ賞ノ處分ヲ定ム

第六　恩賜賞ニ關スル決議（明治四十四年二月十二日總會決議　明治四十四年四月十二日總會決議）

一　皇室ノ御下賜金ヲ以テスル賞ハ之ヲ恩賜賞ト稱スルコト

二　恩賜賞ノ數ハ毎年第一部第二部各一個トシ場合ニ依リ二個ニ等シ分スルコトヲ得若シ其ノ年度内ニ授與シ了ラサルモノアルトキハ之ヲ遞次繰越シ授與スルモ差支ナキコト

三　恩賜賞ハ賞牌ニ賞記及賞金ヲ添ヘテ之ヲ授クルコト

恩賜賞牌

帝國學士院賞牌

縮尺五分之三

其一

賞記

帝國學士院ハ何誰ノ何々ニ對シ本院授賞規則第二條ニ依リ茲ニ恩賜賞賞牌及賞金ヲ授與ス

年　院印　月　日

院長位勳爵氏名花押

割印番號

其二

賞記

帝國學士院ハ何誰ノ何々ニ對シ本院授賞規則第二條ニ依リ茲ニ帝國學士院賞賞牌及賞金ヲ授與ス

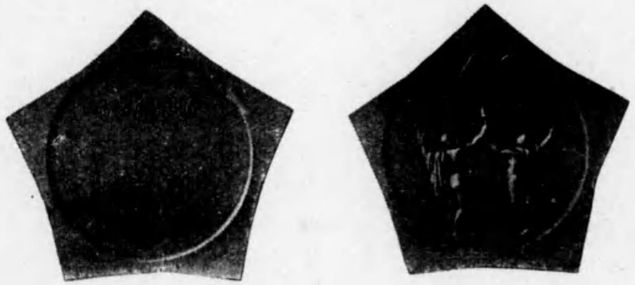
年　院印　月　日

院長位勳爵氏名花押

割印番號

大阪毎日新聞東京日日新聞寄附

東宮御成婚記念賞賞牌



縮尺五分ノ三

其三

賞記

帝國學士院ハ何誰ノ何々ニ對シ本院授賞規則第二條ニ依リ茲ニ大阪毎日新聞東京日日新聞寄附東宮御成婚記念賞賞牌及賞金ヲ授與ス

年　院印　月　日

院長位勳爵氏名花押

割印番號

第七　貴族院帝國學士院會員議員互選規則

勅令第二百三十三號（大正十四年六月十九日官報）

貴族院帝國學士院會員議員互選規則

第一條　貴族院令第五條ノ二ノ規定ニ依ル選擧ハ帝國學士院規程ニ定メタル各部ニ於テ各二人ヲ互選スルモノトス

第二條　貴族院令第五條ノ二ノ規定ニ依ル互選資格ヲ有スル者ハ選擧ノ期日ノ三十日前ヨリ其ノ日迄引續キ帝國學士院會員タル者タルヘシ

第三條　選擧ニ關スル事項ハ內閣總理大臣之ヲ管理ス

第四條　選擧ハ九月二十日東京ニ於テ之ヲ行フ

第五條　選擧ハ投票ニ依リ之ヲ行フ

投票ハ一人一票ニ限ル

第六條　帝國學士院長ハ選擧管理者ト爲リ選擧ニ關スル事務ヲ擔任

ス

第七條　帝國學士院長ハ選擧會場及投票ノ時間ヲ定メ選擧ノ期日ヨリ少クトモ二十日前ニ官報ヲ以テ之ヲ告示シ且各互選人ニ其ノ通知書ヲ發スヘシ

第八條　互選人ハ選擧會場ニ於テ選擧管理者ノ交付シタル投票用紙ニ其ノ選擧ニ於ケル議員ノ定數以下ノ被選擧人ノ氏名ヲ自ラ記載シテ投函スヘシ

投票用紙ニハ選擧人ノ氏名ヲ記載スルコトヲ得ス

第九條　互選人東京府ノ外ニ居住スルニ因リ又ハ公務若クハ疾病傷痍ニ因リ選擧ノ當日選擧ノ會場ニ到ルコト能ハサルトキハ郵便ニ依リ投票ヲ爲スコトヲ得

第十條　前條ノ規定ニ依リ投票ヲ爲サムトスル者ハ選擧ノ期日ヨリ少クトモ十日前ニ選擧管理者ニ理由ヲ具ヘテ其ノ旨ノ届出ヲ爲スヘシ但シ正當ノ理由ニ因リ當該期間内ニ届出ヲ爲スコトヲ得サル場合ニ於テハ選擧ノ期日ノ前日迄ニ届出ヲ爲スコトヲ得

前項ノ届出ヲ受ケタルトキハ選擧管理者ハ直ニ投票用紙及投票用封筒ヲ當該互選人ニ送付スヘシ

第十一條　前條ノ規定ニ依ル送付ヲ受ケタル互選人ハ投票用紙ニ其ノ選擧ニ於ケル議員ノ定數以下ノ被選擧人ノ氏名ヲ自ラ記載シ之ヲ投票用封筒ニ入レ封緘シ更ニ之ヲ他ノ封筒ニ入レ封緘シ其ノ表面ニ署名捺印シ且投票在中ノ旨ヲ明記シ投票ノ時間ノ終了スル時迄ニ到達スル樣書留郵便ヲ以テ選擧管理者ニ之ヲ送付スヘシ

投票用紙及投票用封筒ニハ選擧人ノ氏名ヲ記載スルコトヲ得ス

第十二條　選擧管理者ハ前三條ノ規定ニ依ル郵便投票ヲ受領シタルトキハ選擧會場ニ於テ投票ノ時間内ニ互選人ノ面前ニ於テ外部ノ封筒ヲ開披シテ投票用封筒ヲ投函スヘシ

第十三條　天災其ノ他避クヘカラサル事故ニ因リ投票ヲ行フコトヲ得サルトキ又ハ更ニ投票ヲ行フノ必要アルトキハ帝國學士院長ハ

選擧ノ期日、選擧會場及投票時間ヲ定メ選擧ノ期日ヨリ少クトモ二十日前ニ官報ヲ以テ之ヲ告示シ且各互選人ニ其ノ通知書ヲ發シ更ニ投票ヲ行ハシムヘシ

第十四條　投票終ルノ後選擧管理者ハ互選人ノ面前ニ於テ投票ヲ點檢スヘシ此ノ場合ニ於テ投票用封筒ニ入レタル投票アルトキハ其ノ封筒ヲ開披シタル上總テノ投票ヲ混同シタル後點檢スヘシ

第十五條　投票ノ拒否及效力ハ選擧管理者之ヲ決定ス

第十六條　左ノ投票ハ之ヲ無效トス

一　成規ノ用紙ヲ用ヒサルモノ

二　互選人ニ非サル者ノ氏名ヲ記載シタルモノ

三　一投票中其ノ選擧ニ於ケル議員ノ定數ヲ超過スル被選擧人ノ氏名ヲ記載シタルモノ

四　被選擧人ノ氏名ノ外他事ヲ記載シタルモノ但シ官位、職業、身分、住居又ハ敬稱ノ類ヲ記入シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

五　被選擧人ノ氏名ヲ自書セサルモノ

六　被選擧人ノ何人タルカヲ確認シ難キモノ

七　貴族院帝國學士院會員議員ノ職ニ在ル者ノ氏名ヲ記載シタルモノ

前項第七號ノ規程ハ第二十四條又ハ第二十五條ノ規定ニ依ル選擧ノ場合ニ限リ之ヲ適用ス

第一項第二號、第六號又ハ第七號ニ該當スル投票ハ連記投票ノ場合ニ於テハ其ノ該當ノ部分ノミヲ無效トス

第十七條　有效投票ノ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選人トス但シ其ノ選擧ニ於ケル議員ノ定數ヲ以テ總被選擧人ノ得票總數ヲ除シテ得タル數ノ四分ノ一以上ノ得票アルコトヲ要ス

當選人ヲ定ムルニ當リ得票數同シトキハ年齡多キ者ヲ取リ年齡モ亦同シキトキハ選擧會場ニ於テ選擧管理者互選人ノ面前ニテ抽籤シテ之ヲ定ム

第十八條　第十四條ノ規定ニ依ル點檢ノ結果ハ其ノ場ニ於テ之ヲ告知スヘシ當選人ノ其ノ場ニ在ラサルトキハ尙直ニ當選ノ旨ヲ本人ニ告知スヘシ

第十九條　貴族院令第九條ノ規定ニ依ル選擧ニ關ル爭訟ノ結果更ニ選擧ヲ行コトナクシテ當選人ヲ定メ得ル場合ニ於テハ選擧管理者之ヲ定ムヘシ

當選人當選ヲ辭シタルトキ、死亡者ナルトキ又ハ其ノ他ノ事由ニ因リ當選人闕クルニ至リタルトキハ選擧管理者ハ直ニ第十七條第一項但書ノ得票者ニシテ當選人ト爲ラサリシ者ノ中ニ就キ當選人ヲ定ムヘシ

前二項ノ場合ニ於テ選擧管理者ハ直ニ當選人ニ當選ノ旨ヲ告知スヘシ

第二十條　當選人當選ノ告知ヲ受ケタルトキハ其ノ當選ヲ承諾スルヤ否ヤヲ選擧管理者ニ屆出ツヘシ

當選人當選ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ二十日以內ニ前項ノ屆出ヲ爲ササルトキハ其ノ當選ヲ辭シタルモノト看做ス

第二十一條　當選人當選ヲ承諾シタルトキハ帝國學士院長ハ當選人ノ氏名ヲ內閣總理大臣ニ報告スヘシ

第二十二條　選擧管理者ハ選擧錄ヲ作リ選擧ニ關スル顚末ヲ記載シ署名シ且其ノ寫ヲ內閣總理大臣ニ送付スヘシ

當選人議員ニ勅任セラレタルトキハ內閣總理大臣ハ選擧錄ノ寫ヲ貴族院議長ニ送付スヘシ

第二十三條　投票ハ有效無效ヲ區別シ郵便投票ニ用ヒタル封筒、選擧錄其ノ他ノ關係書類ト共ニ議員ノ任期間帝國學士院ニ於テ之ヲ保存スヘシ

第二十四條　當選人ナキトキ若ハ當選人其ノ選擧ニ於ケル議員ノ定數ニ達セサルトキ又ハ當選人ナキニ至リ若ハ當選人其ノ選擧ニ於ケル議員ノ定數ニ達セサルニ至リタル場合ニ於テ第十九條ノ規定

ニ依リ當選人ヲ定ムルコトヲ得サルトキハ帝國學士院長ハ選擧ノ期日、選擧會場及投票ノ時間ヲ定メ選擧ノ期日ヨリ少クトモ二十日前ニ官報ヲ以テ之ヲ告示シ且各互選人ニ其ノ通知書ヲ發シ更ニ選擧ヲ行ハシムヘシ

第二十五條　議員ニ闕員ヲ生シタルトキハ貴族院議長ヨリ其ノ旨ヲ上奏シ勅旨ヲ以テ補闕選擧ヲ行フヘキコトヲ命シ及其ノ期日ヲ指定スヘシ

第二十六條　前二條ノ選擧ヲ同時ニ行フ場合ニ於テハ一ノ選擧ヲ以テ合併シテ之ヲ行フ

第二十七條　補闕議員ハ其ノ前任者ノ殘任期間在任ス

第二十八條　貴族院令第九條ノ規定ニ依リ貴族院ニ出訴スルノ期限ハ議院開會ノ後十日以内トス但シ開院中議員ニ勅任セラレタル場合ニ於テハ其ノ後十日以内ニ於テ出訴ノ期限トス

前項ノ期限ニ滿タスシテ議院閉會セラレ出訴スルコト能ハサルトキハ尚次ノ會期ノ開會後十日以内ニ出訴スルコトヲ得

附　則

本令ハ貴族院令第五條ノ二ノ規定ノ施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（參照）

明治二十二年二月十一日公布勅令第十一號貴族院令抄錄

第五條ノ二　滿三十歲以上ノ男子ニシテ帝國學士院會員タル者ノ中ヨリ四人ヲ互選シ其ノ選ニ當リ勅任セラレタル者ハ其ノ會員タルノ間七箇年ノ任期ヲ以テ議員タルヘシ其ノ選擧ニ關ル規則ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第九條　貴族院ハ其ノ議員ノ資格及選擧ニ關ル爭訟ヲ判決ス其ノ判決ニ關ル規則ハ貴族院ニ於テ之ヲ議定シ上奏シテ裁可ヲ請フヘシ

第八　貴族院帝國學士院會員議員ノ互選ニ用フル投票用紙、投票用封筒及投票函ノ樣式ニ關スル閣令

閣令第五號（大正十四年八月二十一日官報）

貴族院帝國學士院會員議員ノ互選ニ用フル投票用紙投票用封筒及投票用封筒及投票函ノ樣式ニ關スル閣令

投票函ノ樣式ハ帝國學士院長之ヲ定メ內閣總理大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第九　寄附金ヲ以テスル賞ニ關スル決議

（明治四十四年十一月十二日總會議決　同四十五年五月十二日總會修正議決　大正八年三月十二日總會修正議決　同十二年三月十二日總會修正議決　同十二年十二月十二日總會修正議決）

一　男爵三井八郎右衛門ヨリノ寄附金ヲ以テセル賞ハ第二部ニ於テ毎年其ノ數ヲ一個トシ男爵岩崎久彌ヨリノ寄附金ヲ以テスル賞ハ第一部第二部各隔年ニ一個トス但シ場合ニ依リテハ部ニ於テ之ヲ分チ貳個以上ノ賞トスルコトヲ妨ケス

大阪毎日新聞社長本山彥一寄附東宮御成婚記念學術奬勵資金ノ內ヲ以テセル賞ハ之ヲ「大阪毎日新聞東京日日新聞寄附東宮御成婚記念賞」ト稱シ其ノ數ハ各部ヲ通シテ毎年四個トス

受賞者ナキトキハ之ニ對スル賞金ハ遞次翌年度ニ繰越シ之ヲ授與スルコトヲ得

賞ハ賞牌ニ賞記及賞金ヲ添ヘテ之ヲ授ク

二　寄附ノ條件ニ依リ寄附金ヨリ生スル利殖金ヲ賞又ハ研究費補助トシテ使用スルコトヲ得ル場合ニ於テ之ヲ賞トスルトキハ其ノ數及ヒ所屬ハ總會ニ於テ之ヲ定ム

前項ノ賞ニシテ記念ノ趣旨ヲ表明スルコトヲ要スル場合ニハ之ヲ某記念賞ト稱シ賞金ニ賞記ヲ添ヘテ之ヲ授ク

三　二人以上共同ノ事業ニ對シテハ賞記ニ其ノ旨ヲ記シ各自ニ之ヲ授ク但シ賞金ハ分割セサルコトアルヘシ

第十　條件附寄附金ニ關スル決議

（大正五年一月十二日總會議決）

學術研究ノ奬勵ヲ目的トスル寄附金ノ使途ニ關シテハ總會又ハ部會ハ必要ナル審査及決議ヲ爲スヘシ

第十一　藤田男爵奬學費給與ニ關スル決議

（大正六年二月十二日總會議決）

一　男爵藤田平太郎寄附ノ奬學費ハ其ノ指定セラレタル用途ノ範圍ニ於テ有望ナル研究者ニ之ヲ與フ

二　奬學費ヲ受クヘキ者ノ選定ハ部會ノ決議ニ依ル部會ノ決議ハ部長之ヲ總會ニ報告ス

三　奬學費ヲ受クヘキ者ノ數ハ各部ニ於テ毎年之ヲ定ム奬學費ハ一人一箇年金三百圓トス但シ更ニ其ノ支給ヲ繼續スルコトヲ得

四　奬學費ヲ受ケタル者ノ氏名ハ寄附者ニ之ヲ報告ス

第十二　末松子爵夫人寄附羅馬法奬勵資金ノ使途ニ關スル決議（大正七年七月十二日第一部々會議決　大正十年十一月十二日第一部々會議決）

一　子爵夫人末松生子寄附羅馬法奬學資金ハ其ノ利殖金ノ一部ヲ以テ羅馬法律書籍ヲ購入シ奬學品トシテ各官公私立大學中羅馬法ヲ教授セル各大學ノ大學院又ハ法科大學在學中ノ學生ニ與フルモノトス但シ適當ト認ムル他ノ學生ニ與フルコトアルヘシ

尙ホ場合ニ依リ相當ノ圖書館ヲ選定シ之ニ寄贈スルコトヲ得

利殖金ノ他ノ一部分ハ之ヲ積立テ羅馬法律書籍ノ出版費トシテ使用スヘキモノトス

二　奬學品ヲ受クヘキ者及書籍ヲ寄贈スヘキ圖書館ノ選定ハ第一部部長ノ銓考ニ依ル但シ銓考事項ハ之ヲ部會及總會ニ報告スヘシ

奬學品ヲ受クヘキ者及書籍ヲ寄贈スヘキ圖書館ノ數並ニ出版費トシテ積立テ置クヘキ金額ハ相當ノ範圍ニ於テ毎年之ヲ定ム

三　奬學品ヲ受ケタル者ノ氏名及書籍ヲ寄贈シタル圖書館ノ名ハ之ヲ寄附者ニ報告スヘシ

第十三　松方公爵米壽祝賀記念奬學資金ニ關スル決議（大正十一年四月十二日總會議決　大正十二年三月十二日總會修正議決）

一　松方公爵米壽祝賀會寄附ノ奬學資金ハ寄附ノ條件ニ從ヒ元金ハ

永ク保存シテ之ヲ利殖シ其ノ利子ヲ奬學費ニ充ツ

二　奬學費ハ主トシテ財政經濟農業及漢學ニ關スル學科ノ研究費褒賞費講義費、學生費、出版費等ニ充テ其ノ他本院ニ於テ適當ト認ムル事業費ニ之ヲ使用ス

三　奬學費使途ノ事項ニハ「松方記念」ノ稱ヲ冠ス

四　奬學費ノ使途並ニ其ノ受領者ノ選定ハ當該部會ノ決議ニ依ル部會ノ決議ハ部長之ヲ總會ニ報告ス

五　奬學費ヲ以テ施行シタル事項ハ毎年之ヲ松方公爵家ニ報告ス

第十四　大阪毎日新聞社長本山彦一寄附東宮御成婚記念學術奬勵資金ノ使途ニ關スル議決（大正十二年十二月總會議決）

一　大阪毎日新聞社長本山彦一寄附東宮御成婚記念學術奬勵資金ノ内ヲ以テセル學術研究資金ニハ「大阪毎日新聞東京日日新聞寄附東宮御成婚記念」ノ稱ヲ冠シ該資金使途ノ事項ニハ之ニ依リタル旨ヲ表明スルコト

二　研究資金ヲ受クヘキ者ノ選定ハ部會ノ議ヲ經テ總會ニ於テ之ヲ決定ス

三　研究資金ヲ受ケタル者ノ氏名及研究事項ハ毎年之ヲ大阪毎日新聞東京日日新聞両社ニ報告ス

第十五　小池厚之助寄附奬學資金ノ使途ニ關スル決議（大正十四年九月十九日臨時總會議決）

一　小池厚之助寄附奬學資金ハ寄附ノ條件ニ從ヒ其ノ總額ヲ基金トシテ永久ニ保存利殖シ其ノ利子ヲ研究費補助ニ充ツ

二　基金ヨリ生スル利子ノ中毎年度金參千圓ヲ控除シ特別補助資金トシテ之ヲ積立利殖シ殘餘ノ利子ノ一半ハ醫學ノ研究費補助ニ充テ他ノ一半ハ一般研究費補助ニ充ツ

三　特別補助資金及其ノ利殖金ハ特別重要事項ノ研究ニシテ特ニ多額ノ補助金ヲ要スルモノニ對シ十分ナル補助ヲ爲サムトスルトキニ限リ之ヲ使用ス

四　研究費補助ヲ受クヘキ者ノ選定ハ本院總會ノ「學術研究費補助ニ關スル決議」ニ依リ之ヲ爲ス

五　研究費補助ヲ受ケタル者ノ氏名ハ其ノ研究事項ト共ニ毎年之ヲ小池家ニ報告ス

第十六　學術研究費補助ニ關スル決議

（明治四十年七月十二日總會議決　大正八年三月十二日總會修正議決　大正十二年三月十二日總會修正議決　大正十五年一月十二日總會修正議決）

一　會員ニシテ學術研究費ノ補助ヲ要スルコトアルトキハ研究ノ目的ヲ明記シ之ニ要スル概算費目ヲ二月末日マテニ部長ニ申出ツヘシ

會員ニ非サル者ニ對スル學術研究費ノ補助ハ會員又ハ官公私立大學ノ總長若クハ學長ノ推薦ニ依ル

前項ノ推薦ハ院長ニ宛テ毎年二月末日迄ニ書面ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス

一　決議一ノ申出及推薦ハ研究事項ノ屬スル部ニ於テ之ヲ審査スル爲毎年三月ノ部會ニ於テ部長其ノ部ニ屬スル審査委員若干名ヲ指名ス

部長ハ審査委員會ヲ召集シ其ノ議長ト爲ル審査委員會ノ決議ハ三月末日マテニ部長之ヲ院長ニ報告スヘシ

三　學術研究費補助案ハ部長ノ報告ニ基キ役員會議ニ於テ之ヲ定メ四月ノ總會ニ提出シテ其ノ承認ヲ受クヘシ但シ緊急ノ場合ニ於テハ院長ハ決議一及二ノ手續ニ依ラス部長ノ申請ニ因リ役員會議ニ於テ決定シ次回ノ總會ニ於テ之ヲ報告スヘシ

四　學術研究費ノ補助ヲ受ケタル者ハ研究結了後直ニ其ノ成績ヲ報告スヘシ

研究數年ニ渉ル場合ニ於テハ毎年十二月末日マテニ研究進行ノ狀況ヲ記載セル報告書ヲ部長ニ提出スヘシ

五　補助ヲ受ケタル研究ノ成績報告書ニハ本院ヨリ研究費ノ補助ヲ受ケタル旨ヲ明記スルコトヲ要ス

第十七　學術研究費補助推薦ニ關スル決議（大正五年一月二十五日總會議決）

學術研究ノ奬勵ヲ目的トスル事業ニ關シ推薦ノ依頼ヲ承諾シタルトキハ總會又ハ部會ハ委員ヲ選出シ必要ナル審査ヲ爲サシメ其ノ結果ニ依リ決議ヲ爲スヘシ

第十八　出版ニ關スル決議（明治四十年七月十二日總會議決　同年十一月十二日總會修正議決　同四十四年十一月十二日總會修正議決）

一　毎年一回年報ヲ刊行シテ報告ヲ登載スヘシ

二　帝國學士院規程第七條第八條及帝國學士院會則第十一條第二項第十二條ニ依ル論文報告講演等ハ帝國學士院紀事又ハ別冊トシテ刊行スルコトヲ得

三　圖書又ハ論文ヲ編纂校訂飜譯若クハ謄寫セシメ又ハ之ヲ出版スルコトヲ得

四　第二項ニ掲ケタル論文報告及講演ヲ帝國學士院紀事又ハ別冊以外ニ掲載セントスルトキハ院長ノ許可ヲ經ルコトヲ要ス

第十九　帝國學士院紀事及別冊ノ出版ニ關スル決議（明治四十年十二月十二日總會議決　同四十四年十二月十二日總會修正議決　大正十四年七月十二日總會修正議決）

一　帝國學士院紀事ハ集會ノ錄事及會員ノ提出セル論文報告書等ヲ登載ス

二　長編ノ論文報告書等ハ別冊トシテ隨時刊行シ其ノ概要ヲ紀事ニ登載ス

三　會員ニ非サル者ノ論文報告書等ニシテ會員ノ紹介ニ依リ提出セラレタルトキハ之ヲ紀事又ハ別冊ニ掲クルコトアルヘシ

四　既ニ他ニ出版セル論文報告書等ハ之ヲ紀事又ハ別冊ニ登載セス

但シ其ノ概要ヲ抄錄スルハ此限ニアラス

五　出版委員若干名ヲ置キ出版ニ關スル事務ヲ委任ス

出版委員ハ論文報告書等ノ取捨節略ニ關シ疑アルトキハ之ヲ總會又ハ部會ニ提出スルコトヲ得

六　出版委員ハ部ニ於テ之ヲ選出シ幹事ヲ以テ委員長トス

部選出委員ノ數ハ各部之ヲ定メ其ノ任期ヲ三箇年トス

第二十　學術奬勵金

一　御下賜金

皇室御下賜金ノ一

皇室ヨリ學術研究御奬勵ノ思召ヲ以テ明治四十三年ヨリ十箇年間年々金貳千圓ヲ下賜セラレ引續キ大正九年以降十箇年間年々金貳千圓ヲ下賜セラレタルモノニシテ賞典費ニ充ツ

皇室御下賜金ノ二

大正九年一月以降年々皇室ヨリ學術研究御奬勵ノ思召ヲ以テ金壹萬圓ツヽヲ下賜セラレ更ニ昭和二年二月金壹萬圓ヲ下賜セラレタルモノニシテ學術研究ノ資ニ充ツ

二　寄附金

(一)　男爵三井八郎右衛門寄附金

男爵三井八郎右衛門ヨリ明治四十四年以降十箇年間毎年金壹千圓

宛合計金壹萬圓更ニ大正十年以降十箇年間毎年金壹千圓宛合計金壹萬圓ヲ寄附セルモノニシテ第二部ニ屬スル賞典費ニ充ツ

(二) 三菱合資會社寄附金

三菱合資會社々長男爵岩崎久彌ヨリ明治四十四年以降十箇年間毎年金壹千圓ツヽ合計金壹萬圓更ニ同會社々長男爵岩崎小彌太ヨリ大正十年以降十箇年間毎年金壹千圓ツヽ合計金壹萬圓ヲ寄附セルモノニシテ賞典費ニ充ツ

(三) 工學博士藥學博士高峰讓吉寄附金

大正元年工學博士藥學博士高峰讓吉ヨリ金五千圓ヲ寄附シ其ノ使用方法ハ本院ニ一任セルモノニシテ元金ハ之ヲ保存シ之ヨリ生スル利殖金ヲ一般學術研究費補助ニ充ツ

(四) 男爵住友吉右衛門寄附金

男爵住友吉左衛門ヨリ大正元年以降十箇年間毎年金壹千圓ツヽ合計金壹萬圓ヲ寄附シ其ノ使用方法ハ本院ニ一任セルモノニシテ之ヲ一般學術研究費補助ニ充ツ

(五) 男爵古河虎之助寄附金

男爵古河虎之助ヨリ大正二年以降十箇年間毎年金壹千圓ツヽ合計金壹萬圓更ニ大正十二年以降十箇年間毎年金壹千圓ツヽ合計金壹萬圓ヲ寄附シ其ノ使用方法ハ本院ニ一任セルモノニシテ之ヲ一般學術研究費補助ニ充ツ

(六) 男爵藤田平太郎寄附金

大正四年男爵藤田平太郎ヨリ金貳萬貳千圓ヲ寄附セルモノニシテ寄附ノ條件ニ依リ金貳千圓ヲ羅馬法學書出版費補助トシテ之ヲ使用シ金壹萬圓ヲ羅馬法學奬學資金トシ金壹萬圓ヲ採鑛冶金學及關係學科奬學資金トシ各奬學資金ヨリ生スル利殖金ヲ東京帝國大學及京都帝國大學ノ大學院又ハ分科大學在學中ノ學生ノ奬學費ニ充

ッ

（七）三井合名會社寄附金

大正五年三井合名會社々長男爵三井八郎右衛門ヨリ左ノ出版費トシテ金參千圓ヲ寄附セルモノナリ

金壹千圓　大日本數學史ノ增補出版費

金貳千圓　伊能忠敬測地事蹟調査事項出版費

（八）山下龜三郎寄附金ノ一

山下龜三郎ヨリ大正五年以降十箇年間每年金壹千圓ッヽ合計金壹萬圓ヲ寄附モルモノニシテ船舶航海其他之ニ關スル學術研究ノ資ニ充ッ

但シ右金額ノ納付方法ハ使途ノ狀況ニ於テ隨時之ヲ變更スルコトヲ得

（九）山下龜三郎寄附金ノ二

山下龜三郎ヨリ大正十二年以降十箇年間每年金壹千圓ッヽ合計金壹萬圓ヲ寄附セルモノニシテ國際關係ノ學事費ニ之ヲ使用ス

（一〇）故桂公爵記念事業會寄附金

大正六年故桂公爵記念事業會總代男爵澁澤榮一ヨリ學術研究奬勵ノ爲金貳萬圓ヲ寄附セルモノニシテ寄附ノ條件左ノ如シ

元金ハ桂學術奬勵基金トシテ保存シ之ヨリ生スル利殖金ノ全部又ハ一部ヲ

一　學術研究ニ依リ社會ニ多大ノ貢獻ヲ爲シタリト認メラルヽ者ニ賞トシテ與フルカ又ハ

二　學術研究費補助トシテ之ヲ使用シ

三　孰レモ桂學術奬勵基金ニ據リタルコトヲ表明スルコト但シ場合ニ依リ（一）若クハ（二）ヲ選行シ又ハ二者ヲ併行スルハ帝國學士院ノ任意タルヘキコト

（一一）子爵夫人末松生子寄附金

大正七年子爵夫人末松生子ヨリ羅馬法奬勵資金トシテ有價證券額面金五千百圓ヲ寄附セルモノニシテ寄附ノ條件左ノ如シ

資金ノ利殖金ヲ以テ每年若干宛羅馬法律書ヲ購入シ適宜ノ方法ニ依リ可然學生ニ之ヲ分與シ又ハ場合ニ依

リ相等ノ圖書館ヲ選定シテ之ニ寄贈スヘキコト尚ホ必要ノ場合ニハ右法律書ノ印刷費ニ充ツルコト

(一一) 松方公爵米壽祝賀會寄附金

大正十一年松方公爵米壽祝賀會發起人總代男爵阪谷芳郎平山成信ヨリ松方公爵米壽祝賀記念奬學資金トシテ金十八萬圓ヲ寄附セルモノニシテ寄附ノ條件左ノ如シ

一 本資金ハ適當ノ方法ヲ以テ之ヲ利殖スルコト

二 元金ハ永ク之ヲ保存シ其ノ利子ノミヲ使用スルコト

三 利子ハ主トシテ財政經濟農業及漢學ニ關スル研究ノ補助褒賞等ニ使用スルコト

四 前項以外タリト雖モ帝國學士院ニ於テ相當ト認ムル事業ニ利子ヲ使用スルハ妨ケナキコト

五 利子ヲ以テ施行シタル事項ハ毎年之ヲ松方公爵家ニ報告スルコト

同追加寄附金ノ一

大正十二年四月松方公爵米壽祝賀會發起人總代平山成信ヨリ金五千四百五拾四圓ヲ寄附セルモノニシテ松方公爵米壽祝賀記念奬學資金ヨリ生スル利子ニ加ヘ奬學ノ目的ニ使用ス

同追加寄附金ノ二

大正十二年五月松方公爵米壽祝賀會殘務整理委員男爵阪谷芳郎ヨリ金五百六拾圓ヲ寄附セルモノニシテ松方公爵米壽祝賀記念奬學資金ノ中ヘ加ヘ使用ス

(一一三) 財團法人原田積善會寄附金

財團法人原田積善會理事原田二郎ヨリ大正十二年以降壹百箇年間毎年金壹萬圓(四月及九月ノ両月ニ分納)ツヽ合計金壹百萬圓ヲ寄附セルモノニシテ寄附ノ條件左ノ如シ

一 金壹萬圓ノ内金貳千圓ハ之ヲ原田二郎奬學基金トシテ積立テ適當ノ方法ヲ以テ永遠ニ利殖スルコト但シ五十年後ニアリテハ右基金ヨリ生スル利子ヲ帝國學士院ニ於テ適宜使用スルモ妨ケナキコト

二 金壹萬圓ノ内金八千圓ハ毎年奬學ノ爲使用スルコトヽシ其方法ハ總テ帝國學士院ニ一任スルコト

三 本寄附金ニヨリ施行シタル事項ハ毎年之ヲ原田積善會ヘ報告スルコト

(一一四) 高峰保全株式會社寄附金

高峰保全株式會社取締役鹽原又策ヨリ賞又ハ研究資ノ基金トシテ

大正十二年以降五箇年間毎年金五千圓(一月及七月ノ二期ニ分納)ツ、合計金二萬五千圓ヲ寄附セルモノニシテ其ノ利殖金ヲ學術研究ノ賞又ハ資トシテ使用ス

(一五) 三共株式會社寄附金

三共株式會社取締役鹽原又策ヨリ前記「高峰保全株式會社寄附ニ係ル基金ノ利子ヲ大正十三年ヨリ金壹千圓ツ、使用シ得ル爲其ノ不足補充ノ目的ヲ以テ大正十二年ヨリ三箇年ニ渉リ金貳千圓ヲ寄附セルモノナリ

(一六) 大阪毎日新聞社長本山彦一寄附金

大阪毎日新聞社長本山彦一ヨリ東宮御成婚記念學術奬勵資金トシテ大正十三年以降十箇年間毎年金壹萬圓ツ、合計金拾萬圓ヲ寄附セルモノニシテ寄附ノ條件左ノ如シ

一 毎年金壹萬圓ノ中金四千圓ハ賞金トシ金六千圓ハ研究資金トシテ之ヲ使用セラレタキコト

二 賞ハ「大阪毎日新聞東京日日新聞寄附東宮御成婚記念賞」ト稱シ賞牌及賞記ト共ニ金壹千圓宛四人ニ之ヲ授與セラレタキコト但シ賞牌ノ制式ハ貴院ニ一任スルコト、シ其ノ作製ニ要スル費用ハ別ニ本社ヨリ之ヲ貴院ニ納付ス

三 受賞者ナキトキハ賞金ノ一部又ハ全部ヲ遞次翌年ニ繰越シテ使用セラル、モ妨ケナキコト

四 研究資金ノ使用方法ハ之ヲ貴院ニ一任スルモ該資金使途ノ事項ニハ「大阪毎日新聞東京日日新聞寄附東宮御成婚記念」ノ稱ヲ冠セラレタキコト

(一七) メンデンホール寄附金

米國人元東京大學教師故トマス、メンデンホールノ遺言ニ因リ同人息チャールス、メンデンホールヨリ大正十四年米貨二千五百弗ヲ寄附セルモノニシテ天文學及物理學ニ關スル奬學費ニ充ツ

(一八) 小池厚之助寄附金

小池國三ノ遺志ニ依リ同人息小池厚之助ヨリ大正十四年五月金參拾萬圓ヲ寄附セルモノニシテ寄附ノ條件左ノ如シ

一 寄附金總額ハ之ヲ基金トシテ永久ニ保存シ適當ノ方法ヲ以テ之ヲ利殖スルコト

二　右基金ヨリ生スル利子ハ之ヲ貴院ノ選定ニ依ル學術研究ノ補助資金ニ充ツルコト

三　右基金ヨリ生スル利子ノ中ヨリ毎年金參千圓ヲ控除シ其ノ殘額ノ一半ハ醫學ノ研究補助費ニ充テ他ノ半額ハ一般研究ノ補助費ニ充ツハキコト

四　上記控除セル金參千圓ハ特別補助資金トシテ毎年之ヲ積立テ利殖シ特ニ多額ノ資金ヲ投スルニアラサレハ研究ヲナシ得サルカ如キ特別重要ナル事項ノ出現ヲ俟テ之ニ十分ナル補助ヲ與フル事

同追加寄附金

小池厚之助ヨリ大正十五年三月金壹萬四千七百貳拾圓餘ヲ寄附セルモノニシテ學術研究ノ補助費ニ充ツ

(一九)　岡野節寄附金

岡野節ヨリ大正十五年二月金五千圓ヲ寄附セルモノニシテ右基金ハ之ヲ永久ニ保存シ之ヨリ生スル利子ヲ學術研究ノ補助費ニ充ツ

同追加寄附金

男爵岡野節ヨリ大正十五年三月金參拾貳圓餘ヲ寄附セルモノニシテ學術研究ノ補助費ニ充ツ

(二〇)　小津清左衛門寄附金

小津清左衛門ヨリ學術奬勵金トシテ大正十五年九月金五千圓ヲ寄附セルモノニシテ寄附ノ條件ニ依リ「南朝の柱石北畠親房及びその子孫の事蹟」ノ研究費ニ充ツ

第二十一　役員

大正十五年二月十七日	院長	理學博士	櫻井錠二
同　年三月二十日	幹事	文學博士	姉崎正治
同　年十二月二十一日	第一部々長	法學博士　男爵	富井政章
同　十三年七月一日	第二部々長	醫學博士	佐藤三吉

第二十二　會員及客員

一　會員

明治三十九年六月十二日	第二部	醫學博士	三宅秀
同	第二部	理學博士	櫻井錠二

同	第一部	法學博士	宮崎道三郎	
同	第二部	理學博士	小藤文次郎	
同	第一部	文學博士	坪井九馬三	
同	第二部	醫學博士	小金井良精	
同 年九月十四日	第二部	理學博士 藥學博士	長井長義	
同	第一部	文學博士	南條文雄	
同	第二部	工學博士 男爵	古市公威	
同	第二部	理學博士	田中館愛橘	
同	第二部	醫學博士 男爵	北里柴三郎	
同	第一部	法學博士 男爵	富井政章	
同	第一部	法學博士	土方寧	
同	第二部	理學博士	藤澤利喜太郎	
同	第二部	醫學博士	三浦謹之助	
同	第二部	理學博士	長岡半太郎	

同 年十月二十四日	第一部	法學博士	一木喜德郎	
同 四十一年三月三十一日	第一部	文學博士	上田萬年	
同 年五月廿六日	第二部	理學博士	松村任三	
同 年八日四日	第一部	文學博士	三上參次	
同 年十一月廿八日	第二部	理學博士	中村精男	
同	第一部	法學博士	金井延	
同 四十二年六月廿二日	第二部	醫學博士	佐藤三吉	
同 年十一月三十日	第二部	理學博士	平山信	
同 四十四年一月十一日	第一部	法學博士	美濃部達吉	
同 年三月廿八日	第一部	文學博士	大槻文彥	
同 年四月廿八日	第二部	理學博士	石川千代松	
同 四十五年二月廿七日	第一部	文學博士	高楠順次郎	
大正二年五月廿九日	第一部	法學博士	山崎覺次郎	
同 六年六月廿二日	第一部	文學博士	服部宇之吉	

同	年十二月廿六日	第一部	法學博士	小野塚喜平次
同	七年三月廿五日	第一部	文學博士	村上專精
同		第二部	醫學博士	伊藤隼三
同	年六月廿五日	第二部	理學博士	水野敏之亟
同		第一部	法學博士	織田萬
同	八年二月廿八日	第二部	理學博士	池田菊苗
同	年三月廿六日	第一部	文學博士	白鳥倉吉
同	年四月廿九日	第二部	醫學博士	山極勝三郎
同	年十二月五日	第一部	文學博士	松本文三郎
同	九年五月一日	第一部	法學博士	春木一郎
同	年十月二十七日	第二部	理學博士	三好學
同	年十一月廿九日	第一部	法學博士	立作太郎
同	年十二月二十七日	第二部	醫學博士	荒木寅三郎
同	十年一月廿四日	第一部	文學博士	松本亦太郎

同	十一年四月七日	第二部	理學博士	佐々木忠次郎
同		第一部	法學博士	福田德三
同	年十二月廿六日	第二部	理學博士	本多光太郎
同	十二年三月十日	第二部	工學博士	高松豐吉
同	年五月三日	第二部	醫學博士	宮入慶之助
同	年十一月十四日	第二部	醫學博士 理學博士	野口英世
同	年十一月廿八日	第一部	文學博士	姉崎正治
同	十四年二月三日	第一部	法學博士	田島錦治
同	年四月八日	第一部	文學博士	市村瓚次郎
同	年六月二十七日	第二部	藥學博士	田原良純
同		第一部	文學博士	三宅米吉
同		第一部	法學博士	横田秀雄
同		第一部	農學博士 法學博士	新渡戸稲造
同		第一部		德富猪一郎

同　第二部　工學博士　伊東忠太
同　第二部　理學博士　岸上鎌吉
同　第一部　文學博士　狩野直喜
同　第二部　農學博士　吉川祐輝
同　第二部　理學博士　丘淺次郎
同　第一部　文學博士　大塚保治
同　第一部　法學博士　安達峰一郎
同　第二部　理學博士　中村清二
同　第二部　理學博士　山崎直方
同　第二部　理學博士　今村明恒
同　第二部　理學博士　木村榮
同　第一部　法學博士　山田三良
同　第一部　法學博士　加藤正治
同　第一部　法學博士　高野岩三郎

大正十五年一月十一日

同　第二部　工學博士　俵國一
同　第一部　文學博士　吉田靜致
同　第二部　理學博士　田丸卓郎
同　第一部　文學博士　瀧精一
同　第二部　農學博士　鈴木梅太郎
同　第一部　文學博士　桑木嚴翼
同　第二部　理學博士　平山清次
同　第二部　理學博士　高木貞治
同　第一部　法學博士　中田薫
同　第一部　法學博士　松本烝治
同　第二部　理學博士　寺田寅彦
同　第二部　理學博士　矢部長克
同　第二部　理學博士　藤原松三郎
同　第一部　文學博士　内藤虎次郎

同　年二月二十七日　第一部　法學博士　清水澄
同　第二部　理學博士　小川琢治
同　年五月五日　第二部　理學博士　眞島利行
昭和二年四月四日　第二部　理學博士　池野成一郎
同　第一部　法學博士　松波仁一郎

二　客員

大正十四年十二月十二日　サー、チャールス、エリオット

第二十三　事務職員

明治四十年六月十日　書記　文部屬兼東京商大事務官　佐原茂一
同　四十二年十二月八日　囑託　金坂周次
大正十五年六月十二日　市橋靜子
同　十二年十二月八日　南雲由松
昭和二年三月十七日　津田虎雄

第二十四　事業擔當會員囑託員及出版委員

一　和算史調査

大正六年十月十二日　擔當會員　理學博士　藤澤利喜太郎
同　十五年十二月十八日　囑託　岡本則錄
同　十二年十一月廿一日　猪俣一三

二　帝室制度ノ歷史的研究

大正九年三月十六日　擔當會員主任　文學博士　三上參次
同　十五年二月主任推薦　法學博士　美濃部達吉
同　九年三月十六日　同　文學博士　服部宇之吉
同　十一年二月廿五日　同
同　九年五月廿五日　囑託員　文學博士　和田英松
同　同　文學博士　山本信哉
同　年九月六日　同　田邊勝哉
同　年十月五日　同　淺野長武

同	十月五日	囑託員	櫻井秀
同	十一年二月十六日	同	諸橋轍次
同	十二年四月廿六日	同	龍肅
同	十三年十一月一日	同	芝葛盛
同	十四年一月三十一日	同	黑井大圓
同		同	藤原猶雪
同		同	高橋隆三

三　我邦ト歐洲諸國トノ交通史料ノ蒐集及研究

大正十年五月十日	擔當會員	文學博士	三上參次
同　十二年二月十三日	囑託員	文學博士	村上直次郎

四　南朝の柱石北畠親房及びその子孫の事蹟研究

昭和二年二月十二日	擔當會員	文學博士	三上參次
同　年四月二十三日	囑託員		伊木壽一

五　帝國學士院紀事及別冊出版委員

大正十五年三月二十日	委員長	文學博士	姉崎正治
明治四十四年六月十二日 大正三年六月十二日 同七年六月十二日 同十年六月十二日 同十三年六月十二日	編纂主任	醫學博士	三浦謹之助
同	同	理學博士	長岡半太郎
大正十三年六月十二日	同	法學博士	立作太郎
同　十四年九月十九日	委員	理學博士	平山信
同	同	法學博士	美濃部達吉
同	同	理學博士	石川千代松
同	同	文學博士	高楠順次郎
同	同	農學博士	吉川祐輝
同	同	理學博士	山崎直方
同	同	理學博士	今村明恒

同　工學博士　俵國一
同　農學博士　鈴木梅太郎
同　理學博士　高木貞治
同　文學博士　松本亦太郎

大正十五年四月十二日

第二十五　論文

（自明治四十年四月至大正十五年三月　略之）

提出年月日	題目	提出者又講演者
大正十五年四、一二日	不減衰傳導學說（荒木寅三郎紹介）	加藤元一
同	「パラパキヂスクス」ノ一研究	矢部長克　清水三郎　及川奥助　石木下國雄　橋本昌矣
同	「プラスワイト」彗星ノ寫眞觀測ト其軌道（平山信紹介）	長岡半太郎　內山清太郎
同	無線時報ノ精度ニ就テ（平山信紹介）	長岡半太郎　岡本二郎
同	穿孔磁極ヲ有スル電磁石ノ磁場	小神哲五郎　幡彦一
同	蓄電器隊ノ單一火花ニヨル金屬ノスペクトル	長岡半太郎　池邊常力
同	最大感度ノ電流計コイル（長岡半太郎紹介）	長岡半太郎　三島忠雄
同	干渉計ヲ備ヘタル常屈折角「プリズム」	

同　蠶ニ及ボス「ウラニウム」放射ノ影響（石川千代松紹介）　寺尾寿　若森直喜新
同　「モルグラ」ト「リゾモルグラ」トノ中間ニ位スル單獨海綿類　會員　丘淺次郎
同　ノ一新屬ニ就イテ　岡田清三郎
同　日本人ノ基礎新陳代謝
同　オツヂ氏筋ノ神經分布
同　動物ノ膽汁分泌ト熱ノ關係
同　「インシュリン」、「アドレナリン」、「テトラヒドロベタナフチユルアミン」、「ヴイタミン」B及食鹽ノ膽汁分泌ニ及ボス影響ニ就テ（以上四件三浦謹之助紹介）　櫻井久一
同　シノメニンノホフマン分解ニ就テ（鈴木梅太郎紹介）　後藤格次
同　牽引及壓縮試驗ノ際ニ鋼試料ニ起ル溫度（俵國一紹介）　木谷要一　佐々木六郎
同年五、一二日　潛伏切支丹ニ關スル一二ノ新材料　會員　姉崎正治
同　「イソ、バレルアルデハイド」ノ還元電壓ニ就テ（鈴木梅太郎紹介）　志方益三　館勇
同　白鼠ノ繁殖ニ及ボス「コレステロール」ノ影響ニ就テ　會員　鈴木梅太郎　橋本鋼太郎
同　北海道白堊紀層ノ新區分法　會員　矢部長克
同　第二次ベタ線ヲ伴フ原子崩壞ノ樣式ニ就テ（長岡半太郎紹介）　木下季吉　池田正士
同　重力測定ニ使用スル「タングステン」振子ニ就テ　會員　萩本義宗　長岡半太郎

年月日	論文	會員
同	ヘリウム原子核ニ就テ	長岡半太郎
五、一二日	カドミウム線ノ構造	長岡半太郎 三島忠雄
同	電氣網ニ流ル、交流系ノ「ヴエクトル、パロー」ノ繼續ト變換ニ就テ（長岡半太郎紹介）	拔山平一
同	可燃物ノ自然發火溫度並ニ之ニ對スル水ノ影響	田中芳雄 永井雄三郎
同	可燃物ノ自然發火溫度ニ對スル「アンチノツク」劑ノ影響（以上二件俵國一紹介）	平井毓太郎
同	日本ノ哺乳兒ニ屢々見ル所ノ腦膜炎樣疾患ノ原因ニ就テ（三浦謹之助紹介）	野村博 鶴見俊二
同	生姜ノ辛味成分ニ關スル研究第三報「シヨウガオル」ノ構造（櫻井錠二紹介）	土肥慶藏
同	黴毒ノ起原ニ就テ	內田亨
六、一二日	キユポ水母ノ幼時ニ就テ（以上二件三浦謹之助紹介）	
同	亞細亞北部民族ノ王號考	白鳥倉吉
同	國語ノ數詞ニ就テ	
同	漢魏時代ノ大秦國ニ就テ	
同	あさがほノアントシアニン色素第一報（櫻井錠二紹介）	片岡孟夫
同	日本ニ於テ發見セラレタル犀類ノ化石（山崎直方紹介）	德永重康
同	電氣火花ノ形狀ト構造ニ就テ	寺田寅彦 中谷宇吉郎

年月日	論文	會員
同	混合瓦斯中ニ於ケル燃燒ノ傳播ニ就テ	寺田寅彦 湯本清比古
同	關東大地震ノ過去二千年間ニ於ケル反復發生ニ就テ	今村明恒
同	蛋白質分子中システイン團ノ存在ニ就テ（鈴木梅太郎紹介）	奧田讓
同	解析的函數ノ零點ニ就テ（高木貞治紹介）	辻正次
同	日本產海鞘（キンチヤク、ロレツツイ）ノ地方的變種ニ就テ	丘淺次郎
同	金及ヒタリウムスペクトル線ノ合致	長岡半太郎 神谷哲五郎
同	蒼鉛線ノ構造ニ就イテ	長岡半太郎 三島忠雄
同	地震波分解器ニ依ル地動ノ性質（今村明恒紹介）	末廣恭二
同	結晶體ノ辷リ抵抗（俵國一紹介）	小野鑑正
同	水銀ノ爆發スペクトル	長岡半太郎 神谷哲五郎
同	アルキルハライトノ燃燒性並ニエチールエーテル及ヒ炭化水素ノ燃燒範圍ニ對スル臭化エチールノ作用	永井雄三郎
同	水素ノ燃燒範圍ニ對スル臭化エチールノ作用	田中芳雄 永井雄三郎
同	水素ノ燃燒ニ關スル研究（第一報）水素ノ燃燒範圍ニ對スル臭化エチールノ作用	
同	水素ノ燃燒ニ關スル研究（第二報）水素ノ燃燒範圍ニ對スル有機性臭素及ヒ沃素化合物ノ化用（以上三件 俵國一紹介）	
同年七、一二日	慈照集ノ發見並ニ慈照派ノ淨土教ニ就テ（井上哲次郎紹介）	小野玄妙

大正十五年七、一二日

同　大正十五年四月十四日ヨリ十六日ニ至ル磁氣嵐ノ記錄ニ就テ（中村精男紹介）　岡田武松
同　臺灣產柑橘類ノ一新種　（吉川祐輝紹介）　田中長三郎
同　哺乳動物ニ於ケル從來未知ノ錐體經路交叉法ニ就テ　（小金井良精紹介）　布施現之助
同　擴張サレタル直交函數及ヒ特異ナル積分方程式トノ關係　會員　藤原松三郎
同　ミンコフスキーノ一定理ノ擴張ニ就テ　（藤原松三郎紹介）　深澤清吾
同　平面曲線及ヒ一通經圓錐曲線族ノ射影的微分幾何學ニ就テ（藤原松三郎紹介）　河口商次
同　連續海藻類ノ一新屬「チクチオスチエラ、デプレツサ」ニ於ケル　會員　丘淺次郎
同　芽生ノ方法ニ就テ　（鈴木梅太郎紹介）　田所哲太郎
同　化學上ヨリ見タル米蛋白ノ品種ニ依ル差異ニ就テ　（鈴木梅太郎紹介）　尾崎準一
同　オキシ脂肪酸ヨリ成ル合成脂肪ノ榮養價ニ就テ　（鈴木梅太郎紹介）　扳山平一
同　不完全ナル「ヂエレキ」物質內ノ電氣現象理論小引　中上豐吉
同　太平洋上ニ於ケル短波通信試驗　以上三件（長岡半太郎紹介）　中上豐吉
同　短波ニ依ル「ナウエン」ヨリノ發信試驗　會員　長岡半太郎　二神哲次郎
同　「ウラン」及ヒ「トール」ノスペクトルニ現ハル、「ウラン」及ヒ　會員　長岡半太郎　二神哲五郎
同　「トール」係放射元素ノ線　會員　長岡半太郎　二神哲五郎　町田敏男
同　針金ノ電氣爆破　會員　長岡半太郎　二神哲五郎
同　「ウラン」及ヒ「トール」ノスペクトルニ現ハル、「ヘーリウム線」

大正一〇、一二日

同　二次元ニ現ハル、「レーレ」波ノ傳播　（長岡半太郎紹介）　妹澤克惟
同　流罪ト傳道トノ聯絡二三ノ例　會員　姉崎正治
同　玄米ノ上表記ニ就テ　會員　德富猪一郎
同　シノメノール及ヒヂシノメノールニ就テ　（鈴木梅太郎紹介）　後藤格次
同　日本ニ於ケル白堊紀及第三紀層ノ境界　會員　矢部長克
同　蠶兒ノ絹絲物質ノ分泌ニ就テ　町田次郎
同　蜻蛉ノ蛹蟲ノ過剩肢ニ就テ　以上二件（石川千代松紹介）　丘英通
同　地盤ノ微動ヲ自記スル電氣的裝置　（寺田寅彥紹介）　小幡重一
同　加壓ニヨル方解石ノ光學的異狀ニ就テ　（俵國一紹介）　西尾滋
同　北極軌道ノ新研究（太陽及太陰ノ影響）　會員　木村榮
同　關東大地震ノ分析　會員　今村明恒
同　實驗的腎炎ニ於ケル腎ノ新陳代謝　渡邊定
同　膵臟分泌液ノ蛋白消化ニ及ホス膽汁ノ影響　松倉三郎
同　惡性腫瘍殊ニラウス氏鷄肉腫ノ「グリタシオン」含有ニ就テ　矢追秀武　中原和郎
同　腎臟ノ酸素消費　田村憲造　渡邊定　鏑木博記

同年一〇、一二日　カフェーン及他ノプリン屬ノ利尿作用　田村憲造　渡邊定
同　本邦產蓁ニ於ケルカフェーン及他ノプリン屬ノ利尿作用（以上六件三浦謹之助紹介）　小夏禹鼎　松原誠三　木原玉汝　仁科敏郎
同　馬鈴薯ニ於ケル花粉不稔性ニ就テノ細胞學的研究（岸上鎌吉紹介）　須藤勇
同　辻君ノ定理ニ就テ　竹中曉
同　有限次ノ有理型函數ノ零點ニ於テ
同　等角寫像小引
同　立體幾何學ノ位相學的根據（以上四件藤原松三郎紹介）　ウイルヘルム、ジユース
同　ピカールノ定理ニ就テ　辻正次
同　相對循還體ノフユーラーニ就テ（以上二件高木貞治紹介）　菅原正夫
同　振動計ニ就テ　拔山平一　松平正敏
同　球面上レーレー波ノ傳播（以上二件長岡半太郎紹介）　妹澤克惟
同　水銀線五七九一並ニ其ノ伴線ノ異常ゼーマン効果　長岡半太郎　三島忠雄　會員
同　電氣的爆發セル針金ノ瞬時寫眞　長岡半太郎　二神哲五郎　會員
同　ラドンのスペクトルとウランとトールのスペクトルの比較　長岡半太郎　二神哲五郎　會員

同　單獨繪海類ニ於ケルミメチスムノ著シキ例　丘淺次郎　會員
同　哺乳類ニ於ケル錐狀體經路ノ一新交叉型。大ありくひニ於ケル所謂近側錐狀體交叉ノ中央側索型（小金井良精紹介）　布施現之助
同　氣體ノ狀態式ニ就テ（田丸卓郎紹介）　芝龜吉
同年一一、一二日　後藤蕃庵及其他ノ東北切支丹ニ就テ　姉崎正治　會員
同　ラヂオ波ノ速度ニ就テ（平山信紹介）　橋本昌矣
同　「イデヤール」論的函數ノ「マキシマール、ガルドヌング」ニ就テ　末綱恕一
同　有理型函數ノ性質ニ就テ（以上二件高木貞治紹介）　清水辰次郎
同　地球內部ノ彈性及ヒ溫度　長岡半太郎　會員
同　水銀線五七七〇ノ特殊九本ニ磁場ニ於ケル分裂　長岡半太郎　三島忠雄　會員
同　蛇皮ノ或ル光學性質　長岡半太郎　二神哲五郎　會員
同　加速度地震計　田丸卓郎　會員
同　ギノリンヂカルボン酸ノ還元ニ就テ（眞島利行紹介）　野副鐵男
同　多價アルコホル類ニ於ケルチオニルクロリドノ作用ニ就テ　眞島利行　島貫平兵衛　會員
同　長週期地震計　今村明恒　會員
同　「まつむし」ノギナンドロモルフニ關スル豫備報告（丘淺次郎紹介）　大町文衛

同一一年一一月一二日　タール癌ノ移植ニ就キテ（山極勝三郎紹介）　福田保
同　食道ニ關スル實驗的研究（第一報）　田宮智耻夫
同　同　上（第二報及第三報）　田宮智耻夫・岡川三郎・島一震
同　網狀内上皮系統ノ機能制止ノ含水炭素新陳代謝ニ及ホス影響ニ就テ　岩澤治義
同　所謂水中毒ノ本態ニ就テ　三澤廣忠
同　肝臟ノ解毒ホーモンノ研究（以上六件三浦謹之助紹介）　佐藤彰
同　二エチルセレン及ヒセレン化水素ノ水素ノ燃燒範圍ニ對スル影響（俵國一紹介）　田中芳雄・永井雄三郎
同　小廻轉ノ釣合ヲ採ル機械（長岡半太郎紹介）　末廣恭二
同　樂浪郡王肝墓發掘ノ成果（白鳥倉吉紹介）　原田淑人
同一二年一二月一二日　北ボルネオノ穴墓（姉崎正治紹介）　宇野圓空
同　逆行惑星運動ノ安定ニ就テ　平山清次
同　短波長電波ノ傳播　長岡半太郎
同　地球内部ニ於ケル密度ト彈性ノ變化　長岡半太郎
同　新ニ精製したるウランのスペクトル　長岡半太郎・二神哲五郎

同　X線ニヨル天然眞珠ト養殖眞珠ノ判別（中村清二紹介）　西川正治・田中正道・高田重雄
同　火花放電ノスペクトルニ就テ　中谷宇吉郎・藤岡由夫
同　媒電體ノ板ニ現ハル、圓形ノ火花ニ就テ（以上二件寺田寅彦紹介）　池田芳郎・伊藤直茂
同　北海道及樺太產白堊紀アンモナイト三種　清水三郎・兒島
同　足尾山地產一新石炭紀腕足類群（以上二件矢部長克紹介）　早坂一郎
同　キンチヤ屬（單獨海鞘類）ノ棘ヲ有スル種ノ調査並ニ一新種ノ記載　丘淺次郎
同　こうろぎ科ニ於ケル染色體ノ數ト複染色體（丘淺次郎紹介）　本多彦九郎
昭和二年一、一二日　切支丹史中ノ日本地名　姉崎正治
同　一次元空間ニ於ケル點對ノ一動經族ノ射影的微分幾何學上ノ性質（藤原松三郎紹介）　河口商次
同　小惑星軌道ノ修正（報告）　平山清次・秋山薫
同　圓形コイルノ自己誘導係數並ニ圓ノ相互誘導係數ノ表　長岡半太郎・櫻井定三
同　特殊振動ニ就テ　長岡半太郎
同　地震波線ノ經路　長岡半太郎
同　白鼠ノ發育ニ及ホス紫外線ノ影響ニ就テ　鈴木梅太郎・波多野正

昭和二年一、一二日　地震ノ初動ノ計測法ニ就テ（今村明恒紹介）　中村左衛門太郎
同　放解石結晶ノ分子構造ニ及ホス溫度ノ影響ニ就テ（寺田寅彦紹介）　坪井忠二
同　種々ノ分壓ニ於ケル鹽素ノ起電力（俵國一紹介）　亀山直人・岡本晴次・山俊平
同二年二、一二日　羅紋數ノ部分和ニ就テ（高木貞治紹介）　吉田洋一
同　西暦一九二五年ニ於ケル北緯三十九度八分上萬國共同緯度觀測事業ノ假結果　會員　木村榮
同　有限振幅ノ不等對振動　會員　長岡半太郎
同　空電ノクリツクとグラインダー　會員　長岡半太郎
同　ネオン線ノ反轉　會員　長岡半太郎・三島忠雄
同　楕圓コイルの磁場　會員　長岡半太郎・池邊常刀
同　不變加速度ノ地震動ナランカ（今村明恒紹介）　松澤武雄
同　サイクローン及アンチサイクローンノ構造ニ就テ（寺田寅彦紹介）　小林辰男
同　ポントプデラ屬ノ外部形態ニ就テ　會員　丘淺次郎
同　無機鹽類、自律神經毒及ビホルモンノ相互關係ニ就テ（三浦謹之助紹介）　茂在照寅・秋谷淳・稲田震一・川島

同　家鶏肉腫ノメチーレン青還元作用缺乏及ヒ其ノ低キ酸素緊張度トノ關係（山極勝三郎紹介）　矢追秀武・中原和郎
同　溫度滴定法ニ依ル濃硫酸及發煙硫酸ノ分析　宗宮尙行
同　溫度滴定法ニ依ル無水醋酸並ニ少量ノ硫酸ヲ含有セル無水醋酸ノ分析（以上二件俵國一紹介）　近藤萬太郎
同　不稔稻ノ系統栽培ノ結果ニ就テ（吉川祐輝紹介）　高橋偵造・朝井勇宣
同　リゾプス屬ニヨリ生産セラル、酸類ニ就テ（鈴木梅太郎紹介）
同　無脂肪食ニ依ル白鼠ノ飼育試驗　會員
同　アリザニンノ一新合成法ニ就テ（鈴木梅太郎紹介）　鈴木梅太郎・橋本鋼太郎・中原和郎
同二年三、一二日　初項係數ノ與ヘラレタル羅紋數ニ就テ　田中宗愛
同　フエケテノ定理ニ就テ　竹中曉
同　ボルヤノ整數値函數ノ擴張　蘇步青
同　超越整函數ノ一性質　深澤清吾
同　非ユークリツド平面ニ於ケル代數曲線ニ關スル點ノ羅ニ就テ（以上三件藤原松三郎紹介）　清水辰次郎
同　地震計ノ不安定ニ就テ　西内貞吉
同　楕圓形コイルノ磁場（以上二件高木貞治紹介）　末廣恭二
同　（以上二件長岡半太郎紹介）　池邊常刀

昭和二年三、一二日

同　ネオン線ノ反轉　會員　長岡半太郎　三島忠雄

同　タリウム線ノ反轉　會員　長岡半太郎　二神哲五郎

同　電氣聽音器　（本多光太郎紹介）　佐藤拔山平一

同　カシパン（海膽類）ノ成分ニ就テ　小竹無二雄

同　エチルエーテル、アセトン及ヒ木精ノ低溫度ニ於ケル粘度　筑作新六　外村德三

同　生薑ノ辛味成分第四報（ショガオールノ合成）（以上三件眞島利行紹介）　野村鶴博　見俊二

同　地球ノ核ノ性質ニ就テ（中村精男紹介）　小野澄之助

同　蒼鉛單晶ノ熱電氣的性質ニ就テ　會員　寺田寅彦　筒井俊正

同　あさがほノ遺傳ニ就テ

同　けしノ遺傳（以上二件石川千代松紹介）　三宅驥一　今井喜孝

同　藤ノ根瘤ノ生理的解剖（三好學紹介）　神保忠男

同　カルキノブテラ、カニビルノ外部形態ニ就テ　會員　丘淺次郎

同　中樞神經細胞顆粒ニ就テ（小金井良精紹介）　鈴木直光

同　實驗的スピロヘトーゼニ於ケル肝臟ノ化學的構造　稻田淳

同　網狀內皮系統ノ機能、第一報告　免疫體ノ產出　尼子富士郎

同　上　第二報告　血液ノ分解　岡本陽七

同　癌腫鼠ノ脾臟ニ就テ

同　熱性患者ノ血液內ニ於ケル無機鹽類ト酸鹽基平均ノ臨床的並ニ實驗的研究　臨床的方面　秋谷實

同　上　實驗的方面（以上七件　三浦謹之助紹介）

同　カルシウムシアナミトノ燃燒熱（俵國一紹介）　龜山直人　岡宗次郎

同　禾穀類ノ花粉ノ貯藏ニ就テ（吉川祐輝紹介）　佐々木喬

同　五節句ニ就テノ研究（其ノ起源沿革）（三上參次紹介）　櫻井秀

第二十六　出版

○假名遣沿革史料　明治四十二年三月發行

○帝國學士院紀事（英文）　第一卷第壹號　明治四十五年三月發行

○帝國學士院紀事（英文）　第一卷第貳號　大正二年三月發行

菊池大麓論文　間重新ノ楕圓起原ニ就テ

○帝國學士院第一部論文集(邦文)　第一號　大正二年六月發行
穗積陳重著　由井正雪事件ト德川幕府ノ養子法

○帝國學士院紀事(英文)　第一卷第三號　大正二年十一月發行

○帝國學士院第二部メモアル(英文)　第壹卷第壹號　大正二年十一月發行
長岡半太郎及高嶺俊夫論文　階段格子及「ルムメル」板ヲ用ヒテ調査シタル水銀線ノ構造　大正二年十二月發行　同十三年七月四版發行

○ユ帝欽定羅馬法學提要(末松謙澄翻譯)　第一卷第四號　大正三年十二月發行

○帝國學士院紀事(英文)
竹内端三論文　代數的「キヨルペル」ニ於ケル「コングルエント」數ノ「クラス」ニ就キ　大正四年三月發行

○〔ウルピアーヌス〕羅馬法範(末松謙澄翻譯)　同十三年七月三版發行

○〔ガーイウス〕羅馬法解說(末松謙澄翻譯)　大正四年三月發行　同十三年七月三版發行

○伊能忠敬(長岡半太郎監修大谷亮吉編著)　大正六年三月發行

○和算ノ方陣問題(菊池大麓監修三上義夫編著)　大正六年三月發行

○諸外國學士院ノ組織及授賞制(藤澤利喜太郎編)　明治三十三年印刷　大正七年三月再版發行

○增修日本數學史(遠藤利貞遺著)　大正七年九月發行

○帝國學士院紀事(英文)
藤澤利喜太郎論文　代數的平均ニ就テ
大谷亮吉編著　伊能忠敬ノ傳記並ニ其事業概說　第一卷第五號　大正七年十月發行

○帝國學士院第一部論文集(邦文)　第二號　大正八年二月發行
穗積陳重著　諱ニ關スル疑　自第二卷第一號至同第十號　大正十五年發行

○帝國學士院紀事(歐文)　自第三卷第二號至同第三號　昭和二年發行

○帝國學士院紀事(歐文)

第二十七　授賞事項及當該受賞者

明治四十四年七月五日
恩賜賞　第一號　地軸變動ノ研究特ニZ項ノ發見　理學博士　木村榮

明治四十五年五月十二日
同　第二號　佛文日清戰役國際法論及佛文日露陸戰國際法論　法學博士　文學博士　×有賀長雄

同　第三號　日本醫學史　富士川游

恩賜賞　第四號　公孫樹ノ精蟲ノ發見　理學博士　×平瀨作五郎
同　第五號　蘇鐵ノ精蟲ノ發見　理學博士　池野成一郎　工學博士　藥學博士　×高峰讓吉

帝國學士院賞　第一號　「アドレナリン」ノ發見

大正二年七月五日

恩賜賞　第六號　續日本後紀纂話　×村岡良弼
同　第七號　腦神經起首ノ研究　醫學博士　上坂熊勝

帝國學士院賞　第二號　外部寄生性吸蟲類ノ研究　理學博士　五島清太郎
同　第三號　軍艦ノ設計殊ニ巡洋戰艦ノ設計　近藤基樹

大正三年七月五日

恩賜賞　第八號　哺乳動物ノ心臟ニ於ケル刺戟傳導筋系統ノ研究　醫學博士　田原淳

帝國學士院賞　第四號　左氏會箋　×竹添進一郎
同　第五號　力學研究　理學博士　×日下部四郎太

大正四年七月五日

恩賜賞　第九號　「スピロヘータパリーダ」ノ研究　醫學博士　理學博士　野口英世

帝國學士院賞　第六號　雲養集　侯爵　×金允植
同　第七號　蠶ノ遺傳研究　農學博士　×外山龜太郎

大正五年七月二日

恩賜賞　第十號　假名ニ關スル研究　文學博士　大矢透
同　第十一號　周公ト其時代　文學博士　×林泰輔

同　第十二、十三號　黃疸出血性「スピロヘーテ」病ニ關スル共同研究　醫學博士　×稲田龍吉　×井戸泰

帝國學士院賞　第八、九、十、十一號　無線電信電話ニ使用スル電氣振動間隙ニ關スル研究　工學博士　×鳥井恒太郎　×鯨山英太郎　×潟右一　横北村政次郎

同　第十二號　鐵ニ關スル研究　理學博士　本多光太郎

大正六年七月一日

恩賜賞　第十四號　日本歌學史及和歌史ノ研究　文學博士　佐々木信綱
同　第十五號　「ラウエ」映畫ノ實驗方法及其說明ニ關スル研究　理學博士　寺田寅彦

帝國學士院賞　第十三號　漆ノ主成分ニ關スル研究　理學博士　眞島利行

帝國學士院賞　第十四號　理學博士　西川正治
「スピネル」ノ原子配置幷ニ歪ヲ受ケタル物體ノ「レントシエン」線檢査ニ關スル研究

大正七年五月十二日

恩賜賞　第十六號　宸記集及皇室御撰解題　和田英松

同　第十七號　印度六派哲學　木村泰賢

同　第十八號　植物界ニ於ケル「フラヴオン」體ノ研究　理學博士　柴田桂太

帝國學士院賞　第十五、十六號　日本住血吸蟲病ノ研究　醫學博士　理學博士　桂田富士郎　醫學博士　藤浪鑑

桂公爵記念賞　第一號　日本經濟叢書　法學博士　瀧本誠一

大正八年五月廿五日

恩賜賞　第十九號　相對性原理萬有引力論及量子論ノ研究　理學博士　石原純

帝國學士院賞　第十七號　漢字ノ研究（古籀篇）　高田忠周

同　第十八、十九號　癌ノ研究　醫學博士　獸醫學博士　山極勝三郎　市川厚一

帝國學士院賞　第二十號　滿俺青銅其他ノ銅合金及鑄鐵ノ鑄造ニ關スル研究　石川登喜治

大正九年五月三十日

恩賜賞　第二十號　法制史之研究　文學博士　三浦周行

同　第二十一號　脂油ノ研究　工學博士　辻本滿丸

帝國學士院賞　第二十一號　密教發達志　×大村西崖

同　第二十二號　音ノ異常傳播ノ研究　理學博士　藤原咲平

桂公爵記念賞　第二號　臺灣植物ノ研究　理學博士　早田文藏

大正十年五月二十二日

恩賜賞　第二十二號　日本佛教史之研究　文學博士　辻善之助

同　第二十三號　腦ノ解剖的研究　醫學博士　布施現之助

帝國學士院賞　第二十三號　「クモヒデト」ノ研究　理學博士　松本彦七郎

同　第二十四號　日本刀ノ研究　工學博士　俵國一

桂公爵記念賞　第三號　河豚ノ毒素ノ研究　藥學博士　田原良純

大正十一年五月二十一日

恩賜賞　第二十四、二十五號「スタルク」效果ノ研究　理學博士　高嶺俊夫　理學博士　吉田卯三郎

帝國學士院賞　第二十五號　生體染色法ニ就テノ研究　醫學博士　清野謙次

同　第二十六號　傳動軸ノ捩レ計ノ研究　工學博士　末廣恭二

大正十二年五月二十七日

恩賜賞　第二十六號　近世日本國民史　德富猪一郎

同　第二十七號　本朝文粹註譯　柿村重松

同　第二十八號　漢藥成分ノ化學的研究　藥學博士　朝比奈泰彥

同　第二十九號　放射線ニ關スル研究　理學博士　木下季吉

大正十三年六月八日

恩賜賞　第三十號　長慶天皇御卽位ノ研究　故　文學博士　八代國治

同　第三十一號　蛋白質及之ヲ構成スル「アミノ」酸ノ細菌ニ因ル分解ト「アミノ」酸ノ合成ニ關スル研究　醫學博士　佐々木隆興

帝國學士院賞　第二十七號　貨幣ト價値幷ニ經濟法則ノ論理的性質　法學博士　左右田喜一郎

同　第二十八號　類脂肪體ノ研究　醫學博士　川村麟也

同　第二十九、三十號　副營養素ノ研究　農學博士　鈴木梅太郎　農學博士　高橋克己

桂公爵記念賞　第四號　大日本金石史　木崎愛吉

大阪毎日新聞　東京日日新聞　寄附東宮御成婚記念賞　第一號　和鏡聚英續和鏡聚英　廣瀨治兵衛

同　第二號　放射線ノ研究ニ使用スル膨脹器ノ研究　清水武雄

同　第三號　神經組織ノ炭酸發生幷ニ炭酸ノ微量測定法ニ關スル研究　醫學博士　田代四郎助

大正十四年五月三十一日

恩賜賞　第三十二號　三階敎ノ研究　文學博士　矢吹慶輝

同　第三十三號　構造物ノ振動殊ニ其ノ耐震性ノ研究　工學博士　物部長穗

帝國學士院賞　第三十一號　白鼠ニ關スル研究　畑井新喜司

大阪毎日新聞 東京日日新聞 寄附東宮御成婚記念賞　第四號　理學博士　曾禰武
氣體ノ滋氣係數測定

大正十五年五月十六日

恩賜賞　第三十四號　日本紋章學　沼田頼輔

同　第三十五號　中國地方ノ古生層及中生層ノ層位學上ノ研究　理學博士　小澤儀明

帝國學士院賞　第三十二號　メシア思想ヲ中心トシタルイスラヘル宗教文化史　文學博士　石橋智信

同　第三十三號　宋末ノ提舉市舶西域人蒲壽庚ノ事蹟　文學博士　桑原隲藏

同　第三十四號　元良式船動搖制止裝置ノ研究　工學博士　元良信太郎

同　第三十五號　オキシダーゼノ組織學的研究　醫學博士　勝沼精藏

同　第三十六號　水銀避雷器ノ研究　工學博士　密田良太郎

大阪毎日新聞 東京日日新聞 寄附東宮御成婚記念賞　第五號　工學博士　齋藤平吉
熱秤分析法ノ研究

同　第六號　ヴイタミンB缺乏症ノ實驗的研究　醫學博士 醫學博士　緒島薗順次郎 緒方知三郎

同　第七號　數種ノ日本產植物ニ關スル化學的研究　理學博士　小松茂

第二十八　藤田男爵奬學費受費者　（自大正六年 至同十四年 略之）

大正十五年六月

羅馬法學奬學費　東京帝國大學大學院學生　原田慶吉

採鑛冶金學及關係學科奬學費　東京帝國大學大學院學生　志村繁隆
京都帝國大學大學院學生　岡田丈五郎

第二十九　子爵夫人末松生子羅馬法奬勵奬學品受品者　（自大正七年 至同十四年 略之）

大正十五年六月

東京帝國大學法學部法律學科學生　大塚振武　松本定　藤島利郎
酒井厚　猪狩良臣　大河内幸雄

東京帝國大學法學部政治學科學生　廣澤吉平
京都帝國大學法學部法律學科學生　和久田鐵雄　田邊重陽　福村幹男
高橋公男　竹內節雄　長澤尙
三坂泰夫
早稲田大學法學部法律學科學生　稲田辰男　阿保市藏
中央大學法學部學生　村田貞一　四條輝雄

第三十　補助研究事項

（自明治四十一年至大正十四年略之）

大正十五年度

和譯マヌ法典ノ出版　會員　高楠順次郎
日本天主教ニ關スル研究　會員　姉崎正治
インドネイジアノ宗教土俗研究　宇部圓空
抱朴子ヲ中心トシタル道教ノ研研　文學博士　小柳司氣太
マヌ法典以外ノ法典飜譯　中野義照
清朝ニ於ケル公羊學ノ發達（清朝經濟史ノ一部分）　坂井喚三
流球諸島言語ノ研究　宮良當壯
日本外史ノ研究　光吉元次郎
練習效果ノ實驗的研究（追加補助）　千輪浩
外國人ノ神道研究ニ關スル資料蒐集　文學博士　補永茂助
江戸時代中期以後ニ於ケル諸藩ノ學校及私塾ノ研究　文學博士　西田直二郎
近世支那文化ノ我邦ニ及ホセル影響ノ研究特ニ西國方面ニ傳ハレル近世支那文化ニ關スル史蹟ノ調査探訪　文學博士　中村久四郎
「日本見在書目錄」ノ研究　神田喜一郎
飼料作物ニ關スル研究　松岡忠一
蚜蟲ノ雌雄出現ト溫度トノ關係　柴田文平
灌漑水ノ溫度ト稻ノ生育收量トノ關係研究　會員　吉川祐輝
禾穀ノ細胞學的並ニ遺傳學的研究　香川冬夫
本邦石炭ノ顯微鏡的構造ト化學的性質トノ關係　岩崎重三
地震地方ニ於ケル土地ノ垂直變動　會員　今村明恒

農產廢物利用特ニ「フルフラール」及ヒ「レヴユリン」酸ノ利用ニ關スル研究　會員　藪田貞次郎

ぼら科魚類ノ研究　會員　岸上鎌吉

小惑星軌道ノ精算　會員　平山清次

北海道及樺太產白堊紀「アンモナイト」化石ノ研究　清水三郎

甲殼類ノ發生　寺尾新

植物ノ遺傳ニ關スル研究　理學博士　三宅驥一　今井喜孝

本邦產石油「ナフテン」酸ノ研究　工學博士　田中芳雄

「アミノ」酸無水物ノ合成及ヒ其ノ分光化學的研究　理學博士　柴田雄次　朝比奈貞一

酸化鐵ニ依ル炭酸曹達ノ苛性化　工學博士　松井元太郎

纖維素「エステル」ニ關スル研究　工學博士　喜多源逸

昆蟲類ヲ材料トスル遺傳ノ研究　駒井卓

土壤窒素ノ消長ニ關スル研究　農學博士　大杉繁

稻ノ結實ト環境トノ關係　佐々木喬

「シノメニウム」及「コツクルス」屬植物含有ノ「アルカロイド」研究　藥學博士　近藤平三郎

ラヂウムノ實驗　理學博士　木下季吉

日本產柳屬ノ分類學的研究　理學博士　早田文藏　木村有香

松方公爵米壽祝賀會記念奬學資金ノ中ヨリ支給セルモノ

江戸時代ニ於ケル諸大藩ノ財政ニ關スル研究　土屋喬雄

支那現在道教ノ研究　今村完道

小池厚之助寄附奬學資金ノ中ヨリ支給セルモノ

癌腫ノ實驗的研究　會員　山極勝三郎

腎臟ノ分泌ノ形態並生理ニ就テ　醫學博士　三田村篤志郎

血液成分ノ調節作用ニ關スル研究　醫學博士　阿部勝馬

交感神經系統ノ外科　醫學博士　伊藤弘　整形外科教室員

內分泌ニ關スル研究　醫學博士　辻寛治

副榮養素ニ關スル研究　農學博士　鈴木文助

各種毒物ノ中樞神經ニ及ホス影響　醫學博士　下田光造　高良武久　鈴木直光

血液蛋白質ノ由來ニ關スル研究　醫學博士　柿内三郎　小松道允

恙蟲病(毛蟲病)病源ノ研究　醫學博士　石原喜久太郎

榮養品(例ヘハ乳汁)ノ「コロイド」化學的研究　藥學博士　服部健三

非經口的ニ注入セル細胞成分ノ生體ニ及ホス影響ニ關スル研究(所謂直接作用ノ現象ニ關スル研究)　醫學博士　宮川米次

色素ノ吸收及排泄　醫學博士　松尾巖　外内科學教室員

微毒ノ實驗的研究　醫學博士　松本信一

精神作用ノ個性別調査ニ關スル研究　醫學博士　三宅鑛一　村松常雄

人類口蓋ノ發生ノ研究　奥田三郎

昭和二年度　醫學博士　井上通夫

日本天主教ニ關スル研究　會員　姉崎正治

インドネシアノ宗教土俗研究　宇野圓空

外國人ノ神道研究ニ關スル資料蒐集　文學博士　補永茂助

「デイゲスタ」法典ノ飜譯　會員　春木一郎

琉球諸島言語ノ研究　宮良當壯

「日本見在書目錄」ノ研究　神田喜一郎

阿彌陀佛及淨土變相ニ關スル圖像誌的研究　津田敬武

ユ帝欽定羅馬法學說彙纂第八卷邦譯竝ニ註解　法學博士　千賀鶴太郎

日本庭苑發達史ノ研究特ニ九州ニ於ケル德川時代庭苑遺構ノ研究　永見健一

土壤窒素ノ消長ニ關スル研究　農學博士　大杉繁

昆蟲類ヲ材料トスル遺傳ノ研究　理學博士　駒井卓

紫外光線ト榮養トノ關係　會員　鈴木梅太郎

中國ノ地質構造ト地震　會員　小藤文次郎

飼料作物ノ改料ニ就テ　松岡忠一

本邦石炭ノ顕微鏡的化學的構造研究　工學博士　岩崎重三
酸化鐵ニ依ル炭酸曹達ノ苛性化　醫學博士　松井元太郎
卵孵化ノ化學　工學博士　富田雅次
纖維素エステル　工學博士　喜多源逸
水素線ノ第二次スタルク効果　木内政藏
空氣中ニ於ケル渦ノ實驗的研究　西久光
生體酸化ニ關スル研究　醫學博士　柿内三郎
本邦產骸炭ノ冶金的性質ノ研究　常吉剛太
「フルフラール」ヨリ林檎酸ノ製造　田中清治
「アミノ」酸無水物ノ分光化學的研究　農學博士　藪田貞治郎
蚜蟲ノ世代ニ及ホス外界ノ影響　理學博士　柴田雄次
海藻ノ「ルシフエリン」及ヒ「ルシフエレース」理化學的性質ノ研究　朝比奈貞一
本邦石油中ノ石炭酸類ノ成分研究　工學博士　柴田文平
田中芳雄　神田左京

シノメニウム及コクルス屬アルカロイド研究　藥學博士　近藤平三郎
アミノ酸類ノ理論化學的乃至生物化學的研究　理學博士　高橋學而
不銹金屬鍍金ニ就テ　工學博士　渡邊俊雄
アルコール類ノ陽極反應　理學博士　松井元興
脂肪屬高級炭化水素ノ合成及其ノ分解ニ就テ　理學博士　小松茂
「ポーラログラフ」ニ依ル微量有機化合物ノ電解還元壓ノ研究　志方益三
鉛蓄電池ノ容量減退防止ニ就テ　富井六造
水產動物卵子ノ生物化學的研究　芳賀惣治
多相同期電動機特ニ回轉變流機ノ亂調ニ就テ　農學博士　山川洵
榮養品ノコロイド化學的研究　熊澤尚文
けし屬植物人工雜種ニ關スル細胞及ヒ遺傳學的研究　藥學博士　服部健三
高壓ニ於ケル絶緣體ノ電導率測定　理學博士　保井コノ
囓齒類ノ蕃殖ニ關スル研究　伊藤直
松方公爵米壽祝賀會寄附資金ノ中ヨリ支給スルモノ　芝田清吾

五經索引ノ作成　森本角藏
邦儒ノ四書註釋ノ蒐集及其ノ研究　關儀一郎
道教ノ研究　今村完道
論語ノ文献學的研究　藤塚鄰
博多長崎ヲ中心トスル北九州經濟史　石濱知行
農業勞働經濟ニ關スル研究　農學博士　橋本傳左衛門
禾穀類ノ細胞學的並ニ遺傳學的研究　香川冬夫
土壤生物ニ關スル研究　理學博士　鏑木外岐雄　澁谷正健
稻ノ病理學的研究　農學博士　逸見武雄　三坂和英
水陸稻ノ生物學的比較研究　農學博士　明峰正夫
大阪毎日新聞東京日日新聞寄附東宮御成婚記念資金ノ中ヨリ支給スルモノ
日本ニ於ケル英學發達ノ歴史　豊田實
老子ノ校正　竹中信以

明治以後ニ於ケル普通教育ノ進歩ニ關スル數量的研究　會員　阿部重孝
地震地方ニ於ケル地盤ノ垂直變動　會員　今村明恒　山崎直方
小惑星ノ軌道要素ノ修正　會員　平山清次
稻ノ結實ト環境トノ關係　佐々木喬
小池厚之助寄附資金ノ中ヨリ支給スルモノ
癌腫ノ實驗的研究　會員　山極勝三郎
ヴイタミンノ見地ヨリ佝僂病及骨軟化症ノ研究　醫學博士　川村麟也
「ハンザキ」(大山椒魚)ノ骨格ノ發生　森於菟
本邦氣候對本邦家屋ノ衞生學的研究補遺　醫學博士　戸田正三
微毒ノ實驗的研究　醫學博士　松本信一
腎組織中ニ存スル一新「ズルフハターゼ」ノ研究　醫學博士　前田鼎
色素ノ排泄及吸收　醫學博士　松尾巖
植物性神經系統ノ外科　醫學博士　伊藤弘

生物體ノ超顯微鏡的構造ノ研究　醫學博士　舟岡省五

副榮養素ニ關スル研究　農學博士　鈴木文助

所謂骨端炎ノ實驗的研究　醫學博士　神中正一

各種毒物ノ中樞神經ニ及ホス影響　醫學博士　下田光造　高良武久　鈴木直光

潛函病ノ研究　醫學博士　眞鍋嘉一郎

非經口的ニ注入セル細胞成分ノ生體ニ及ホス影響ニ關スル研究（所謂直接作用ノ現象ニ關スル研究）　醫學博士　宮川米次

血液成分調節作用ニ關スル研究　醫學博士　阿部勝馬

第三十一　東照宮三百年祭記念會ヘ補助推薦ノ研究事項

（自大正五年至同十四年略之）

大正十五年一月推薦

德川時代經濟史特ニ農民史　黑正巖

史記研究　池田四郎次郎

人類學上ヨリ觀タル沿海州ト出雲越トノ關係ニ就テ　文學博士　鳥居龍藏

神佛分離事件　文學博士　辻善之助

細菌ノ免疫學的分類　醫學博士　青木薰

冶金爐々內ノ化學變化ニ就テ　工學博士　渡邊俊雄　和邇莞爾

菌類ノ寄生ニ基因スル植物ノ疾病ト土壤ノ性質トノ關係ニ就テノ研究　農學博士　逸見武雄　外植物病理學研究室員

雲ノ渦動ノ研究　理學博士　藤原咲平

昭和二年一月推薦

臺灣史出版　伊能嘉矩

江戸時代ニ於ケル庶民教育ニ就テノ研究　石川謙

膽石症及膽道疾患ニ關スル臨床的并ニ實驗的研究　醫學博士　松尾巖　外內科學教室員一同

電氣探鑛法ニ就テ　藤田義象

定常狀態ニアル原子ノ磁場內ニ於ケル運動ニ關スル實驗　渡邊扶生

鑄鐵ニ關スル研究　谷村愚

腸閉塞ニ關スル研究　醫學博士 鹽田廣重　齋藤正意

第三十二　前帝國學士院役員

院長

自明治三十九年八月　文學博士 法學博士 男爵 ×加藤弘之
至同　四十二年六月
自明治四十二年七月一日　理學博士 男爵 ×菊池大麓
至大正六年八月二十日
自大正六年十月二十日　法學博士 男爵 ×穗積陳重
至同十四年十月十二日
自大正十四年十一月十七日　法學博士 男爵 ×岡野敬次郎
至同十四年十二月二十三日

幹事

自明治三十九年八月　文學博士 ×重野安繹
至同　四十二年六月
自明治四十二年七月　法學博士 宮崎道三郎
至大正二年七月
自大正二年七月十一日　理學博士 櫻井錠二
至同十五年二月十七日

第一部々長

自明治三十九年七月十二日　法學博士 男爵 ×穗積陳重
至大正六年十月二十日
自大正六年十一月廿四日　文學博士 井上哲次郎
至同十五年十一月十八日

第二部々長

自明治三十九年八月　理學博士 男爵 ×菊池大麓
至同　四十二年六月
自明治四十二年七月一日　工學博士 男爵 古市公威
至大正十年六月三十日
自大正十年七月一日　理學博士 藤澤利喜太郎
至同十三年六月三十日

出版委員長

自大正二年七月十一日　理學博士 櫻井錠二
至同十五年二月十七日

（×印ハ死亡）

第三十三　前帝國學士院會員及客員

一　前會員

自明治三十九年六月十二日 至同四十年八月十四日	子爵	福羽美靜
自明治三十九年六月十二日 至同年八月三十日	文學博士	黑川眞賴
自明治三十九年六月十二日 至同年十月三日	文學博士	根本通明
自明治三十九年六月十二日 至同年十二月廿二日	理學博士	山川健次郎
自明治三十九年六月十二日 至同年十二月廿二日	醫學博士 子爵	橋本綱常
自明治三十九年六月十四日 至同四十二年二月十八日	文學博士	佐藤誠實
自明治三十九年十月廿四日 至同四十一年三月十一日	理學博士	箕作佳吉
自明治三十九年六月十二日 至同四十二年九月十七日	法學博士	梅謙次郎
自明治三十九年九月十四日 至同四十三年八月廿五日	文學博士	重野安繹
自明治三十九年六月十二日 至同四十三年十二月六日	男爵	大鳥圭介
自明治三十九年六月十二日 至同四十四年九月十五日	工學博士	下瀨雅允
自明治四十一年二月廿六日 至同四十四年九月六日	法學博士	穗積八束
自明治三十九年九月十四日 至大正元年十月五日	文學博士	元良勇次郎
自明治三十九年九月十四日 至大正元年十二月十三日	文學博士	本居豐穎
自明治三十九年九月十四日 至大正二年二月十五日	文學博士	木村正辭
自明治三十九年六月十二日 至大正二年四月十四日	理學博士	坪井正五郎
自明治三十九年九月十四日 至大正二年五月廿六日	醫學博士	三浦守治
自明治三十九年九月十四日 至大正五年二月二日	文學博士 法學博士 男爵	加藤弘之
自明治三十九年六月十二日 至大正五年二月九日	男爵	田中芳男
自明治三十九年六月十二日 至大正五年六月廿二日	理學博士 男爵	菊池大麓
自明治三十九年六月十二日 至大正六年八月二十日	文學博士	星野恒
自明治三十九年九月十四日 至大正六年九月十日		

自明治三十九年六月十二日 至大正六年十二月四日	法學博士	杉享二
自明治三十九年九月十四日 至大正六年二月廿四日	醫學博士 男爵	青山胤通
自明治四十一年八月四日 至大正七年四月七日	醫學博士	隈川宗雄
自明治三十九年九月十四日 至大正七年十二月廿一日	文學博士	中島力造
自明治三十九年六月十二日 至大正八年二五月十二日	文學博士	三島毅
自明治三十九年六月十二日 至大正八年八月一日	醫學博士	緒方正規
自明治四十年六月廿八日 至大正八年十一月十二日	法學博士	松崎藏之助
自明治三十九年九月十四日 至大正八年十一月廿一日	理學博士	久原躬弦
自明治四十二年二月四日 至大正九年九月十三日	法學博士	高橋作衛
自明治四十年四月九日 至大正九年十月六日	文學博士 法學博士 子爵	末松謙澄
自明治三十九年九月十四日 至大正十年三月十四日	理學博士	飯島魁
自明治四十一年五月廿六日 至大正十年十二月十五日	法學博士	岡松參太郎

自大正二年六月廿二日 至同十年七月廿二日	工學博士 藥學博士	高峰讓吉
自明治四十二年四月廿二日 至大正十二年二月廿五日	工學博士	井口在屋
自明治三十九年六月十二日 至大正十二年七月二十日	文學博士 男爵	細川潤次郎
自明治三十九年六月十二日 至大正十二年八月六日	理學博士	寺尾壽
自明治三十九年九月十四日 至大正十二年八月十五日	法學博士 子爵	田尻稻次郎
自明治三十九年九月十四日 至大正十二年十一月八日	理學博士	大森房吉
自大正五年四月二十一日 至同十三年一月二日	文學博士	萩野由之
自明治三十九年九月十四日 至大正十四年十二月廿三日	法學博士 男爵	岡野敬次郎
自明治三十九年六月十二日 至大正十五年四月八日	法學博士 男爵	穗積陳重
自明治三十九年六月十二日 至大正十五年十一月十八日	文學博士	井上哲次郎
自明治三十九年六月十二日 至昭和二年一月十日	醫學博士	大澤謙二
自大正四年三月廿四日 至昭和二年二月六日	文學博士	芳賀矢一

二 前客員

自明治三十九年六月十二日　×ギユスターヴ、ボアソナード、ド、フオンタラビー
至同四十三年六月廿七日

（×印ハ死亡）

第三十四　元東京學士會院役員

會長

自明治十二年一月　至同年六月　×福澤諭吉
自明治十二年六月　至同十三年十二月　×西周
自同十五年六月　至同十九年六月　文學博士　法學博士　男爵　×加藤弘之
自明治十三年十二月　至同十五年六月
自同十九年六月　至同二十九年一月
自同三十一年一月　至同三十九年八月　×細川潤次郎
自明治二十九年一月　至同三十年十二月　×西周

副會長

自明治十四年九月　至同十五年六月　×神田孝平
自明治十五年六月　至同十八年六月

幹事

自明治十八年六月　至同十九年六月　×加藤弘之
自明治十八年六月　至同十九年六月　×神田孝平
自明治十九年六月　至同二十年九月　×箕作秋坪
自明治十九年六月　至同二十年九月　×大鳥圭介
自明治二十年九月　至同二十六年十二月　×細川潤次郎
自明治二十年九月　至同三十九年八月　文學博士　×重野安繹
自明治二十六年十二月　至同三十一年十二月　×杉享二
自明治三十一年十二月　至同三十三年四月　文學博士　〃外山正一
自明治三十三年四月　至同三十四年七月
自同三十八年十二月　至同三十九年八月　理學博士　男爵　×菊池大麓
自明治三十四年十二月　至同三十八年十二月　×田中芳男

（×印ハ死亡）

第三十五　元東京學士會院會員及客員

一會員

自明治十二年一月十五日 至同三十年二月一日 男爵 × 西周
自明治十二年一月十五日 至同三十九年六月十二日 文學博士 法學博士 男爵 × 加藤弘之
自明治十二年一月十五日 至同三十一年七月五日 △ 男爵 × 神田孝平
自明治十二年一月十五日 至同二十五年十二月一日 △ 男爵 × 津田眞道
自明治十二年一月十五日 至同三十六年九月三日 △ 文學博士 × 中村正直
自明治十二年一月十五日 至同二十四年六月七日 △ × 福澤諭吉
自明治十二年一月十五日 至同十四年二月十五日 △ × 箕作秋坪
自明治十二年一月十五日 至同十九年十二月三日 × 杉田玄端
自明治十二年一月廿八日 至同二十二年七月十九日 × 內田五觀
自明治十二年三月一日 至同十五年三月廿九日 × 栗本鋤雲
自明治十二年三月十五日 至同三十年三月六日 × 市川兼恭
自明治十二年二月十五日 至同三十二年八月廿六日 理學博士 男爵 × 伊藤圭介
自明治十二年二月十五日 至同三十四年一月二十四日 文學博士 × 西村茂樹
自明治十二年三月一日 至同三十五年八月十八日 法學博士 × 杉享二
自明治十二年四月二十八日 至同三十九年六月十二日 男爵 × 細川潤次郎
自明治十五年五月十五日 至同三十九年六月十二日 × 小幡篤次郎
自明治十二年五月十五日 至同四年二月十五日 文學博士 × 重野安繹
自明治十二年五月十五日 至同三十九年六月十二日 文學博士 × 川田剛
自明治十二年五月二十八日 至同三十九年六月十二日 子爵 × 福羽美靜
自明治十二年六月十五日 至同十四年一月十五日 × 阪谷素
自明治十二年六月十五日 至同二十二年二月十二日 子爵 × 森有禮
自明治十三年三月十五日 至同三十年十二月一日 法學博士 男爵 × 箕作麟祥

自明治十四年五月十五日
至同十五年十月五日　×鷲津宣光

自明治十四年六月十一日
至同三十九年六月十二日　男爵×大鳥圭介　文學博士×黑川眞頼

自明治十四年十一月七日
至同三十九年六月十二日　文學博士×小中村清矩

自明治十五年六月六日
至同二十八年十月十一日　×村上英俊

自明治十五年十一月七日
至同二十三年一月十日　○伯爵×寺島宗則

自明治十八年九月十六日
至同二十六年六月七日　○子爵×谷干城

自明治十八年九月十六日
至同三十九年五月廿三日　×原坦山

自明治十八年十一月十五日
至同二十五年七月廿七日　文學博士×三島毅

自明治十八年十一月十五日
至同三十九年六月十二日　×田中芳男

自明治十八年十二月十五日
至同三十九年六月十二日　醫學博士三宅秀

自明治十八年十一月十五日
至同三十九年六月十二日　文學博士外山正一

自明治二十二年四月十四日
至同三十九年六月十二日　理學博士男爵×菊池大麓

自明治二十二年十月十三日
至同二十八年二月十八日　×岡松甕谷

自明治二十三年六月八日
至同三十九年六月十二日　文學博士×木村正辭

自明治二十五年一月十日
至同三十一年八月廿七日　文學博士×島田重禮

至明治二十八年五月一日
自同三十九年六月十二日　文學博士井上哲次郎

自明治二十九年一月十二日
至同三十九年六月十二日　醫學博士×大澤謙二

自明治二十九年五月十日
至同三十九年六月十二日　法學博士×穗積陳重

自明治三十年五月九日
至同三十九年六月十二日　理學博士×箕作佳吉

自明治三十一年二月十三日
至同三十九年六月十二日　醫學博士×緒方正規

自明治卅一年四月十七日
至同三十九年六月十二日　理學博士櫻井錠二

自明治卅一年十二月十一日
至同三十九年六月十二日　法學博士宮崎道三郎

自明治三十二年二月十二日
至同三十九年六月十二日　理學博士小藤文次郎

自明治三十三年一月十四日
至同　三十九年六月十二日　文學博士　×根本通明

自明治三十九年六月三十日
至同　三十九年六月十二日　文學博士　坪井九馬三

自明治三十四年五月　六日
至同　三十九年六月十二日　理學博士　山川健次郎

自明治卅五年十二月十四日
至同　三十九年六月十二日　醫學博士　小金井良精

自明治卅六年十二月十三日
至同　卅九年　六月十二日　理學博士　×寺尾壽

二　客員

自明治二十八年四月廿五日
至同　三十九年六月十二日　×ギユスターヴ、ボアソナード、フオンタラビー

（△ハ文部大輔ヨリ會員報帖ヲ交付セラレシ者○印ハ勅選ニ係ル者其他ハ會長ヨリ會員報帖ヲ交付セラレシ者×印ハ死亡ノ者）

第三十六　大正十五年五月十六日授賞式ニ於ケル櫻井院長ノ演說

來賓閣下並に諸君

本日本院授賞式を擧行するに當り、各位の御臨場を辱ふしたることは、本院の光榮とする所でありまして、茲に一同に代り深厚なる謝意を表します。

本年の如く、授賞事項十件受賞者十一名の多數に上りたることは、未だ曾て其の例を見ざる所であります。而も授賞決定に至るまでには、極めて愼重なる審査と鄭重なる手續とを經ることに相成て居りまして、本院授賞規則第二條に明記する如く論文著書其の他特種の研究にして、其の成績卓絕なるものに限り賞を授くる譯でありますから、本日賞を受けらるゝ諸君の名譽は勿論のことでありますが、斯の如き多數の學者に對し、其の功績を表彰することは、我學界の慶事として、滿腔の祝意を表する所であります。

授賞の理由は、各部長の說明に讓ることに致しまして、之より前一年間に於ける本院の事業、其の他の事項に就き、重要なるものの二三を述べて、御淸聽を煩はし

思いと存じます。

本院の目的が、學術の發達を圖り敎化を稗補するにあることは、本院規程第一條の明文にある通りでありまして、此の目的を遂行する爲には、各方面の權威ある學者を網羅することの必要あるは、申すまでもない所であります。然るに、本院規程は明治三十九年の制定に係り、會員の定員を六十人に限りたるが爲、最近二十年間に各學科を通じて多數の權威ある新進學者の輩出ありたるに拘らず、是等の學者を迎ふること能はずして、本院が其の目的を遂行する上に於て遺憾とする所が、多かつたのでありますが、昨年五月之が改正を見るに至り、新會員を迎ふることを得たるは、本院の欣幸とする所であります。

貴族院令の改正に依り、本院より四人の貴族院議員を選出することに相成りましたるは、特に注目を要すべき事項であります。元來學問が國家繁榮の基礎であり、文化增進の原動力であることは、毫も疑を容るべき餘地のない所であるにも拘らず、動もすれば、學問は人事に關係遠きものとして忘れらるゝこと、眞に憂ふべき次第であります。然るに近時に至り、國家も亦一般社會も漸く學問の權威を認むることゝなり、茲に於て我學界の中樞機關たる本院の代表者が、貴族院令の明文に依り、議政の府に列することゝ相成りたるものと考ふるのであります。而して一の純然たる學府より其の代表者を貴族院に送ることは、今回を以て嚆矢とする所でありまして、而も井上、田中館、藤澤、小野塚、諸博士の如き最適任者が、此の選に當られたることは、我學界殊に本院の慶事とする所であります。

皇室より年々賞典の御下賜金がありますする外、學術研究の資として別途の御下賜金がありまして、本年も亦此の有難き御沙汰を拜したる次第であります。更に又、受賞者と共に、會員一同を宮中に召されて、午餐を賜はるの恩命を拜し、實に重々有難きことでありまして、學問御奬勵の聖旨に對し奉り、會員一同感激の至に堪へざる次第であります。

又本院の事業を翼賛する民間篤志家より、學術奬勵金の寄附あることが、近年益々多きを加ふるに至りましたることは、眞に喜ばしき次第であります。從前の三井男爵、岩崎男爵、高峰博士、住友男爵、古川男爵、藤田男爵、山下龜三郎君、故桂公爵記念事業會、末松子爵夫人、松方公爵米壽祝賀會、財團法人原田積善會、高峰保全株式會社、三共株式會社、大阪毎日新聞社長本山彥一君、及米人メンデンホー

ル博士の寄附金の外、更に最近に於て、小池厚之助君及男爵岡野節君より、夫々寄附がありまして、前述の皇室御下賜金に是等の寄附金を加へ、之れを以て學術奬勵に關する本院の事業を行ふて居る次第であります。而して大正十五年度の學術奬勵事業としては、本日授賞を行ふの外、前年より繼續事項を除き、新に五十二件の研究事項に對して補助金を與ふることに決定致したる次第であります。斯の如く、一方に於ては十件の卓絶なる研究を表彰し、他の一方に於ては五十有餘件の有益なる研究を補助して、之が達成を期し、以て學術研究を奬勵し、學術の發達を圖ることを得るは、一に皇室の厚き御保護あるが爲でありますが、又寄附者諸君の御厚志に由ることも決して尠くないことでありまして、此の機會に於て寄附者諸君に對し感謝の意を表します。

本院の最も重要なる事業が、國内學術の發達を圖ることにあるは言を俟たざる所でありますが、更に國内の學術業績を海外の學界に紹介して、世の共有物たらしめ以て本邦が他の文明諸國と共に文運に貢献すべく努力することは、正しく本院の重大なる職能の一であることを信ずる次第であります。即ち本院は此の信念を以て、歐文帝國學士院紀事刊行の計畫中でありましたが、彌々本年一月より毎月一回十數篇の研究論文を登載せる同紀事を發行して、之を廣く海外諸國の學士院、圖書館、大學、研究所、學會等に寄贈することゝ致しました。而して歐文紀事に登載すべき論文は、本院例會に於て之を發表すべきことゝ致したるが爲、例會が眞に學術的面目を具ふるに至りましたることは、歐文紀事の刊行と共に、喜ぶべき現象であると思ふのであります。

歐文紀事の發行に依り、本院と海外學界との聯絡は愈々密接と相成つたる譯でありますが、本院は又萬國學士院聯合會創立以來、其の會員として海外諸國の學士院と共同研究に從事し、且毎年聯合會總會には、本院代表員出席して意見の交換を行ふことゝ致して居ります。而し本年本月ブリユッセルスに於て第七回總會の開催せらるゝに當りては、會員瀧博士、本院代表員として之に出席の爲歐州出張を命せられ、更に在白耳義會員安達博士を煩はし、同じく本院代表員として出席を乞ふことゝ致したる次第であります。

尚昨年九月、露國學士院が其の創立二百年紀念祝賀式を擧行するに當り、會員福田博士が本院を代表して之に參列せし外、本院より祝文を贈りたること、同十一月

極東熱帶醫學大會が東京に於て開催せらるゝに當り、之に出席せる海外諸國の學者を本院主催の午餐會に招待して歡迎の意を表したること、同十二月東洋學殊に印度支那及本邦の佛敎に關し造詣深き前本邦駐劄英國大使サ、チャールス、エリオット博士を本院客員に推擧したること、及本年三月日佛文化聯絡の使命を以て我邦に來遊中のパリ醫科學士院幹事アシャル博士及パリ大學敎授フシエの両氏を本院例會の晩餐に招待したることは、何れも本院が我學界の中樞機關として、一面に於て國内學術の發達を圖ると共に、他の一面に於ては學問の國際關係の必要なるに鑑み、海外諸國の學界と親密なる接觸を保ち、且之に敬意を表せんとする趣旨に出でたるに外ならざるものであります。

終りに臨み、此の祝すべき日に於て本院の不幸に關して一言述べざることを得ざるを遺憾と致します。本院が僅に數ヶ月を出でざる間に、二人の院長を喪ふたることは、眞に痛惜の極みであり、又我學界の一大損失であります。而して近時に於ける本院の發展が、此の兩院長の盡力に由れること如何に多きかを憶ふときは、感謝の念を禁ずること能はざると共に、其の後を襲ふたる本職の責任の重きに過ぐることを痛感せざるを得ざる次第であります。謹で御清聽を煩はしたることを謝します。

第三十七　大正七年五月十二日授賞式ニ於ケル穗積院長ノ演說

來賓閣下並に諸君

本日本院に於て授賞式を擧行するに際し、各位の御臨場を辱くしたるは本院の光榮とする所でありまして、茲に一同に代つて深厚なる謝意を表します。

抑本邦に於ける學士院の設置は、之を泰西諸國が數百年前より之を有するものに比すれば日尙ほ淺く、隨つて其性質も未だ普く世人の熟知する所と爲つて居りませぬゆへ、此機會に於て、本院の性質及事業に就て其概要を述べ、各位の清聽を煩はしたいと存じます。本院の目的及職務は、帝國學士院規程第一條に明記してある通り、學術の發達を圖り敎化を裨補するにありまして、泰西諸國に於ける學士院も概ね皆同一の目的を以て設立せられて居るものであります。此目的を有する帝國學士院は左の三つの資格を合せ有するものであります。

一　内に在りては學問の中心機關たること

二　外に對しては世界各國に於ける學問の聯絡機關たること

三　學者優遇の府たること

此の三つの資格を有することは、略ぼ各國の學士院共通の性質とも云ふべきものであります。今右の三資格に以て少しく之を敷演して、說明致しますれば

第一　學士院は學問の中心機關たること

學士院の職能が一國の學問の中心たるに在る事は既に百年前に彼の有名なる天文學者ラプラースが論じて居りまして、凡そ一國に於ける學問の機關は、大學を始め諸學校、研究所、學會等があり、又個人の學問研究者もありますが、學士院の、大學其他の機關と異なる所は、大學は學問の敎育及研究の最高機關であり、其他の機關も、或は此二者を目的とし、或は其一を目的とする者でありますが、學士院は自身敎育機關にも非ずして、各大學其他の高等學術團體及學者の中央に居て、學術の發達を圖るを以て其職分とするものであります。本院が此任務を盡すに付て是迄採り來りたる方法は付ては略ぼ泰西諸國の學士院の採り來りたるものに同じく、主として左の數件であります。

一　學術研究の補助及奬勵

本院の議決に依り特別なる研究の必を認め、會員又は會員外の者をして之を擔當せしめ其費用を補助し、又は器械を貸付し、又會員若くは會員外の學者より研究費補助の請求あるときは、各部に於て委員を設けて審査を爲さしめたる上總會の議決を經て、前同樣の補助をいたします。

二　學術研究の奬勵

本院の議決に依り特に奬學を要する學術に對して、前同樣の手續に依り、研究者に奬學金又は奬勵品を支給いたします。

三　學術研究補助の推薦

學術研究補助者の依託に依り、本院に於て委員を設けて其研究科目を審査し、其補助の必要の程度に應じて推薦を爲すことがあります。例へば東照宮三百年祭記念會は、毎年巨額の費用を支出して學術研究を補助することゝ爲つて居りますが、本院は同會の依囑に依り、毎年補助科目の審査を爲し、其結果を同會に報告して研究補助の推薦をいたします。

四　新研究の結果の發表

學士院は、各國に於ても學者の創始的新研究を發表する公認機關と爲つて居りまして、同一事項に付て、二人若くは二人以上の學者が殆んど同時に發見を爲すことは、學問歷史上敢て珍らしからぬ事でありますが、通常の場合に於ては其發見の先順位（プライオリチー）の名譽は、先に學士院に於て發表したる者に屬します。我學士院に於きましても、會員の研究は勿論會員の紹介に依り、會員以外の學者の新究研の結果が報告せられまして、之を學士院の紀事又は論文集等に載せて世界に發表せられます。今回恩賜賞を授與せられまする柴田博士の「フラヴォーン」研究の如きも、前後両回本院に報告せられたものであります。

五　出　版

本院に於ては、前述新研究の結果に關する報告、論文等の外、故人又は今人の著作にして、學術上最も有益なるものは、他に出版者無きときは、之を出版することがあります。

六　授　賞

學術の進歩上最も有益なる研究の結果に對しては、本院に於て最も愼重なる審査を行つた上毎年授賞致す事になつて居ります。

授賞の制も、各國に於て最も盛に行はれて居る所でありますが、我邦に於ては明治四十三年に本院に於ける學術奬勵事業の趣旨が恭くも　天聽に達し、賞典資御下賜の旨難有き御沙汰を拜しまして、其翌年より毎年授賞式を行ふことに相成り、次で男爵三井八郎右衛門及男爵岩崎久彌氏より寄附せられたる學術研究奬勵費をも賞典資に充つることゝなりました。

第二　學士院は世界各國に於ける學問の聯絡機關たること。

歐米諸國の學士院は前述の通り、既に數百年若くは數十年前より設立せられて居るものでありますが、近年に至り、其事業愈發展して參りまして、前世紀の末年、即ち一八九九年に、萬國學士院聯合會の設立が議定せられ、聯合會に屬する學士院は、協同して學術の世界的事業に從事し、且つ互に聯絡を保ちて學術の進歩を圖ることゝ爲り、一九〇六年に至り、我帝國學士院も之に加入し、爾來毎會本院より代表者を出し來りました。今回も此開戰中に、英國の皇立學士院ロヤルソサイエチー

の首唱に依り、從來萬國學士院聯合會に於て行ひ居たる事業を、將來如何なる方法に依りて遂行すべきかの問題に付き、聯合諸國の學士院代表者會議を開設する事に決定しましたから會員櫻井、田中館兩博士が、本院を代表して、同會議に列せらるゝ事になつて居ります。

第三　學者優遇の府たること。

學士院は學者優遇の府でありまして、歐米諸國に於きましても、學士院會員は、其數を限り、碩學中より最も嚴重なる規則に依りて選擧せられますから、其會員たる事は學者の至大なる榮譽とし、國家社會より、學者優遇の府と看做されて居ります。我帝國學士院も會員に定數あり、且つ最も嚴重なる選擧法に依り推選することゝ成つて居りますから、缺員ある毎に、之を補充するには、時としては一年餘もかゝる事がある位であります。本院に於て推選したる會員は、勅旨を以て命せられ、勅任の待遇を賜ひ、又規定上高齡者には特に年金を賜ふ事があることに爲つて居ります。又最近に至り、政府より本院會員に鐵道乘車劵の交附もありました。本院には前に述べましたる如く、皇室より賞典資の御下賜ありまするのみならず、此度は圖らずも、會員一同を離宮に召されて午餐を賜はるの恩命を拜し、會員一同學問御奬勵の聖旨に對し奉り感激の至に耐へず、倍々責任の重きを感ずる次第であります。

本院の性質及事業は、概ね前に述べました通りでありますが、我邦に於ては學士院の設立日尚ほ淺く、世人未だ充分に其性質を知らざる爲、之を歐米諸國の盛大に比すれば、未だ極めて微々たる者であります、然し乍ら、上に述べましたる皇室の厚き御保護があります外、近年に至り、殊に大戰勃發以來、本邦に於ても一般の社會が、漸く學問の威力を認むるに至り、各方面より本院の事業を贊助するの擧の、追々と殖えて參りますのは、學問進歩の爲め誠に喜ばしき次第であります、前記皇室御下賜金、及三井男爵岩崎男爵の寄附金の外工學博士藥學博士高峰讓吉君、男爵住友吉左衛門君、男爵古河虎之助君、男爵藤田平太郎君、三井合名會社、山下龜三郎君、故桂公爵記念事業會、及末松子爵夫人より、各學術奬勵金の寄附があり、又山下龜三郎君より學士院の建物寄附の申出があります。

扨本日授賞に相成りまする和田英松君輯宸記集及皇室御撰解題、本村泰賢君著印度六派哲學、理學博士柴田桂太君の植物界に於ける「フラヴン」體の研究、醫學博士

理學博士桂田富士郎君及醫學博士藤浪鑑君の日本住血吸蟲病の研究及法學博士瀧本誠一君編日本經濟叢書に關する授賞の理由は是より會員が說明せられますから、之に讓りますが、是等の著作又は研究に對する擬賞の審査、及部會並に總會の審議は最も鄭重なる手續を履むことゝなつて居ります。隨つて之を受けらるゝ諸君の名譽は申すまでも無く、斯の如き適當なる授賞の目的物を得たるは、我學界の慶事と云はねばなりません。玆に諸君の名譽に對し會員一同と共に祝意を表します。

第三十八　明治四十四年七月五日恩賜賞授與式ニ於ケル菊地院長ノ演說

閣下並諸君

本日本院に於て初めて此授與式を擧行するに際し、御臨場を辱ふしたるは、一同に代りて深く謝する所であります。是より一言學士院の性質及今日此授賞を行ふに至つたる經過を申述べたいと存じ、淸聽を煩します。帝國學士院は、帝國學士院規程第一條にある通り「學術ノ發達ヲ圖リ敎化ヲ裨補スルヲ以テ目的トス」るのであります。學術の發達卽ち創始的學術究研を奬勵する爲めに設立せられたのであります。抑々一國の文明、國民の品位は、獨り陸海軍の强大、產業の隆盛又は富の程度等、物質的のものにのみ依るものでありませぬ、敎育の發達學藝の進步に多大の關係のあることは申すまでもないことであります。而して學士院は唯今申した通り、此學術の發達を圖るものでありますからして、文明國に於ては、何れも學士院の設立のない所はありませぬ、而して學士院の盛なる所は、卽ち又其國の文明の盛なる所、其國の品位の高い所であります。文明國には何處にも必ず學士院はありまするが、其制度に於ては多少異なる所がありますけれど、其學術の發達奬勵の爲に貢獻すると云ふことに於ては皆一つであります。而して奬勵の方法は種々ありますが其主なるものが四つあります。

第一は、學士院の會員になると、國家及社會より名譽なる禮遇を受ける故に、學士院會員になることは、學者の常に名譽として希望する所である、故に是卽ち學術の研究奬勵になる一つの理由であります。

第二には、學士院に於ては學術研究の補助を致します。或は學士院の方より指定

して、斯く〳〵の研究が必要である、之の爲めに若干の金を支出して、此研究を然るべき人に託する、或は又學者の方よりして、斯くの方法を以てこれ〳〵の研究を自分がしたいと思ふ、就ては是々の費用が要るのであるが、其出處がないからどうぞ助けて貰ひたいと云ふやうなことで、或は器械或は材料、或は助手等の爲めに、費用を出して、研究を補助することをして居ります。

第三には、學者のした所の研究を、世間に知らせると云ふことが重要なことであります。自分のした研究を、成るべく早く確かなる道を以て、世に發表することが卽ち其研究に就いて自分が發明者たるの名譽を荷ふ適當の道であります、夫故に各國の學士院に於ては　集會毎に會員自身の研究は勿論、會員の紹介に依りて、會員外の學者の研究の結果が提出されます、さうして之を學士院の紀事又は論文集等に載せて、世界に發表します。尙ほ高尙なる學術上の著作にして、到底民間出版者なきものを出版する等の事も、此の部に屬します。要するに學者が自分の研究を發表する機關のあることは、最も大切なることでありまして、確に學術研究奬勵の最重要なる一方法であります。

第四には、授賞の方法であります。卽ち過去何年間かの間に現はれた所の著書に對し、或は研究に對し、之に賞を授けると云ふことであります、或は出版前に學士院に提出して、學士院より之に賞を授けるものもあります。

以上は、學術研究を奬勵する最も良さ道であります、歐米の學士院に於ては、第二第三第四の事業を盛に行つて居ります、勿論是等の爲めに要する費用は少からぬことでありますけれども、それ等は或は國庫よりの補助に依り、或は個人の寄附等に依つて、實に盛なることを致して居ります。不幸にして我が學士院に於ては、經費の不充分なる爲めに、隨分會員中には有益なる學術研究の考がありますけれども之に其研究を遂行するだけの補助を與へる途もありませぬ、又紀事等を印刷することも、本年までは出來ませぬでしたから、隨つて第三の研究を公にするの途を開くこともありませぬでした。隨つて本院に提出せらるゝ所の論文等の數も、至つて少ないことでありました。本年よりは紀事を印刷する筈になつて居りますが、是とても多くの論文が出て來る場合に於ては、十分にそれを皆印刷に附することは出來ないやうな憫れなる次第であります。第四の授賞に就ても、本院に於ては、何も今日

まではしなかつたのでありますが學士院に於て、是等のことに就て會員が苦心して居ることが、何時しか天聽に達しまして、昨年の本月本日有難い御沙汰書を戴きました。即ち學術の研究の奬勵の爲めに、十年間年々賞典資として二千圓宛御下賜相成ることになりましたので、初めて第四の授賞に着手することが出來ました、會員一同感泣に堪へぬ次第でありまする而して此の授賞の有難い思召しに對しては、十分に御趣意の貫徹するやうにしなければなりませぬからして、先づ授賞規則を制定致しまして、凡そ次の通り極めました。

授賞に就ては、二通りの途を採ることにしました、一つは、會員の推薦、一つは論文の募集である。會員の推薦とは、如何なる研究と云ふことに限らず會員中に於て授賞に價すると考へた所のものを、一定の時期に於て之を推薦することであります。今一つは、何々論題を定めてさうして其答案を募集すること、此二つの方法であります。さうして何れにしても、其擬賞の審議に就ては、最も鄭重なる手續を履むことに致しました。而して凡そ次の事項を定めました賞は會員以外の者に限り授くること、隨て會員の研究に對しては與へぬこと、賞は年々各部に各々一個授くること、最も特別の場合に於ては、二つに分けて與へることも出來ると云ふことに致しました、而して若し其當時に於て適當たる授賞候補者を發見せざる場合に於ては之を次の年に繰延ばし、尙ほ適當なるもの無き時は、適當なるものを發見するまで、何時までも其儘にして置くこと、賞は賞牌に賞金を添へて授けること。

斯の如く定めまして、本年三月の例會に於て、各部に於て推薦するべきものがあるならば、推薦するやうにと云ふことになりまして、第一部に於ては、今回推薦がありませぬでしたが、第二部に於ては卽ち今日授賞をせんとする木村博士が推薦になりました。それより審査委員を選定して、十分に審査を遂げ審査委員會部會及總會に於て孰れも全會一致の決議を經て、今日愈々授賞をすことになりました。木村博士の名譽は申すまでもなきことでありますが斯かる適當なる授賞の目的物のあつたことは吾が學術界の名譽として宜しからうと考へます。尙其事業の概略に就ては、是より會員、長岡博士の說明がありますから、それに讓ります。それで斯の如く學術の研究を表彰することは奬勵の方法として最も有力なるものゝ一と考へます。而して之に依りて本院の性質も益す廣く世間に知れることになり。本院の目的を

遂行する上に於て多大の便利を得るであらうと考へます。是れは獨り本院の爲と云ふ譯ではありません、國家の爲め最も慶賀す可き次第と考へます。而して今日此の式典を擧げるを得たのは、實に難有恩命の結果であります。會員一同感謝惜く能はざる所であります。

第三十九　本院會館工事概要

一　規　模

敷地坪數　一、〇〇〇坪

本館建坪　二〇二坪（附屬門衛所一一坪）

地下室及屋上階共に五層にして各階坪數左の如し

地下室	七三坪	一階及二階　各二〇二坪
三階	一三四坪	屋上階　五四坪二五

合計　六六五坪二五

本館延長、東西と南北と各一八間

本館高さ、中央部　五六尺、兩翼及背部　四九尺

一　構　造

本館構造は鐵筋コングリート造にして、屋根はコンクリートスラップ上に防水層を施し砂利敷とし、外壁は腰廻り萬成產花崗石、上部日の出石貼付及モルタル塗仕上とし、附屬家は鐵筋コンクリート　ブロック造、外部モルタル塗仕上とす。

一　室內仕上

床　大會議室は檜材、フロアリングブロック張、通路へ絨氈敷、貴賓室及院長室絨毯敷、其他の主要室はコルク下敷の上にリノリアム敷、事務室其他はリノリアム敷、廣間廊下等リグノイド塗、玄關便所はモザイックタイル敷とす。

壁　貴賓室、院長室には、檜材高羽目を取付け、其他の主要室は、壁紙張、玄關及廣間の腰廻り大理石貼付、手洗所、便所は、一部タイル張、事務室其他漆喰塗の上水性ペンキ塗とす。

天井　貴賓室は、格天井にして、格緣木製、格間漆喰塗、其他各室は、漆喰仕上水性ペンキ塗とす。

窓及入口　玄關より廣間への入口、及寢室と便所內との入口を除き、全部鋼鐵製にして、主要各室窓には窓掛を取付く。

一　諸設備

暖房　會議室は電氣暖房法により、各席に電熱器及スイッチを備へ着席の儘點滅し得る裝置とす。其他の各室は、瓦斯暖房法を用ひ、ストーヴの位置には、排氣窓を設く。

給水　上水道供給の水を自動電動ポンプにて屋上階の水槽へ送り、夫より炊事室、便所其他へ給水し、屋外に撒水栓三個を備ふ。

避雷　屋上へ突針六基及パラペツト上部へ胴帶を廻し、二ヶ所の導線によりて接地裝置をなす。

電話　一階第一事務室、第二事務室、二階及三階の各廣間に卓上私設電話を置き交換臺により直接外部との通話に使し其の他關係各室間に電鈴設備をなす。

電鈴

便所　水洗式とし、汚水は淨化槽にて處理し、自動ポンプにより下水管へ放流す。

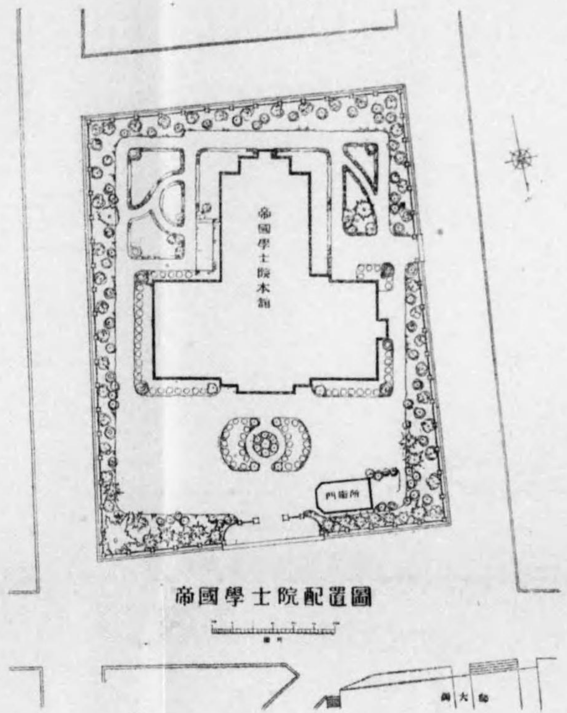
書庫　鋼鐵製書架を取付け、中間に一部硝子張鐵板床を設けて、上下二層となし、通路の一部に閲書卓を備ふ

一　工事設計及施工

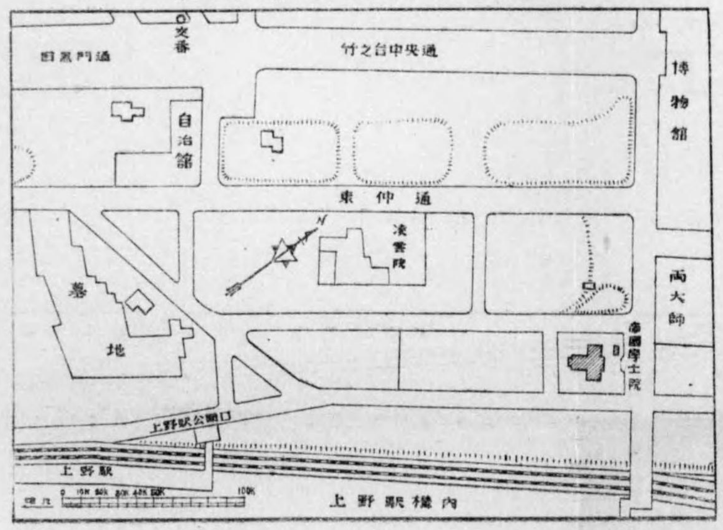
營繕管財局

本工事は當初文部省建築課に於て設計起工し、大正十四年四月營繕管財局へ移管せられ、多少の設計變更をなせり。

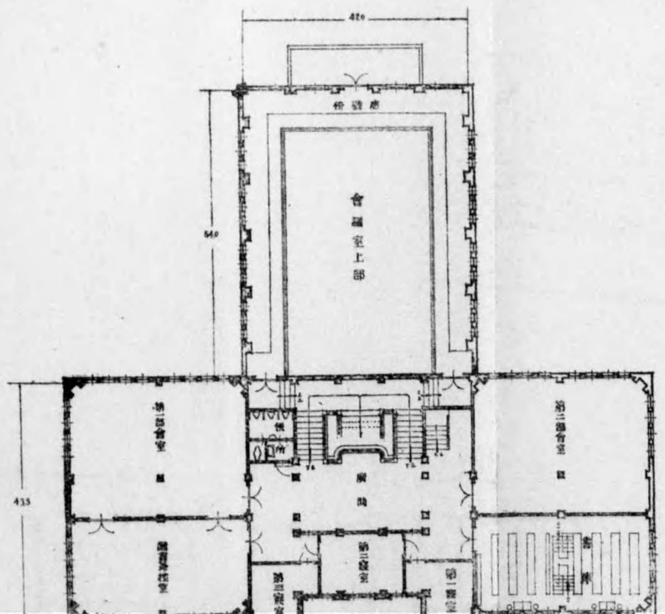
一　工　事　大正十三年十二月起工、　大正十五年九月竣工。

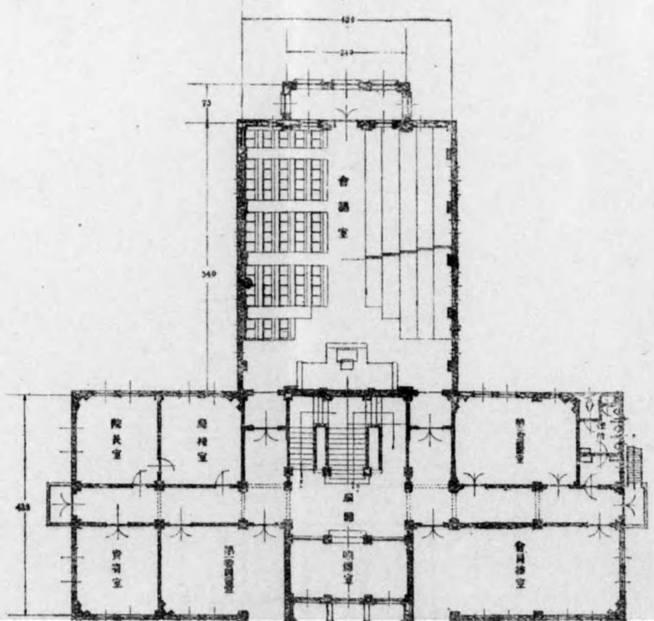


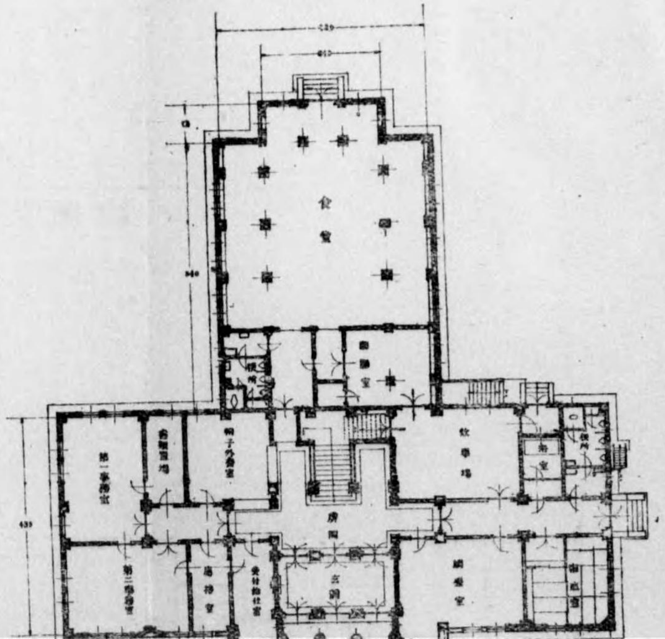
帝國學士院配置圖

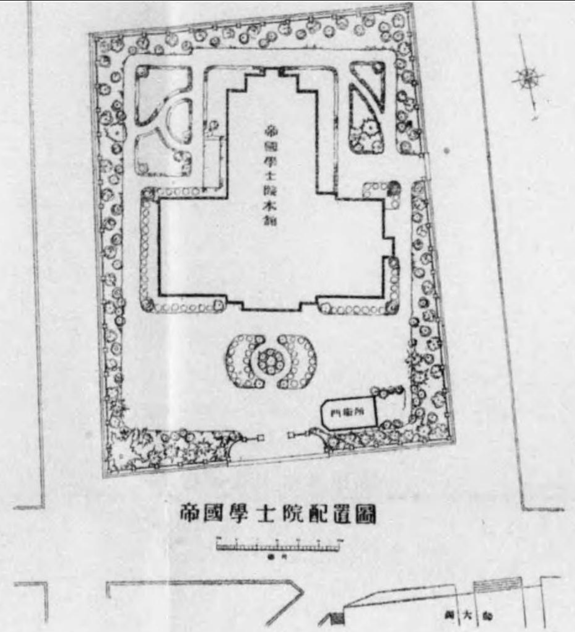


帝國學士院附近略圖



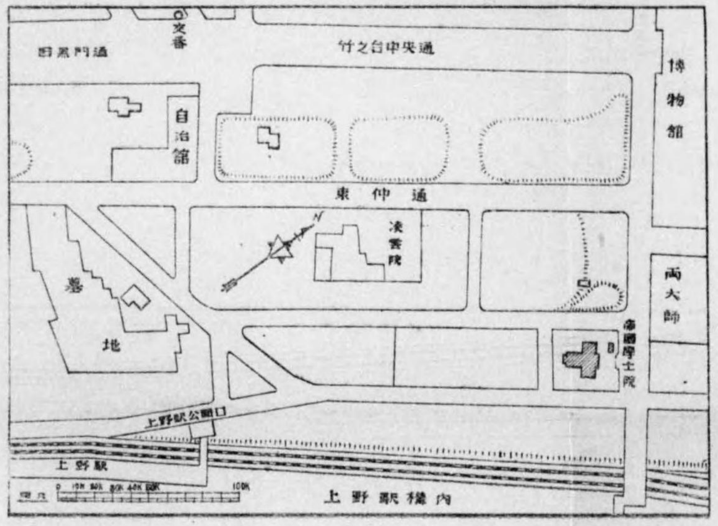


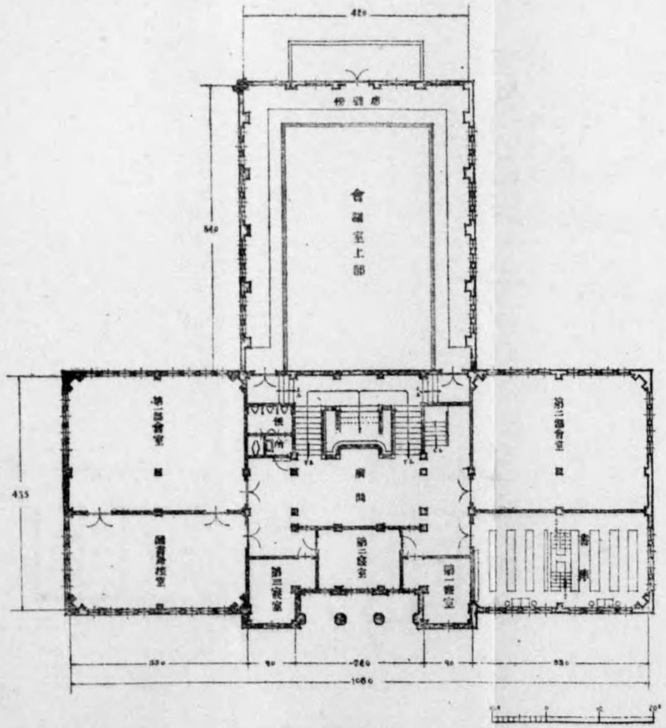




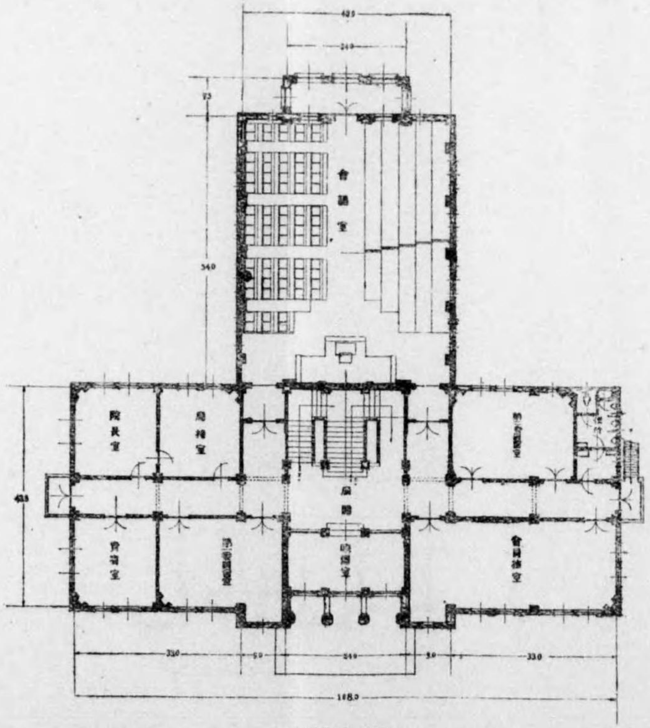
帝國學士院配置圖

帝國學士院附近略圖

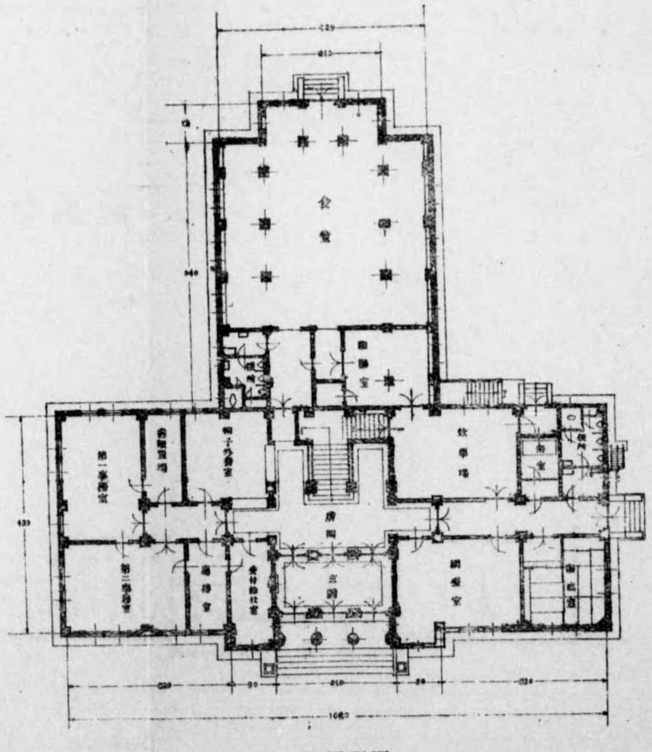




三階平面圖



二階平面圖



一階平面圖

昭和二年

帝國學士院會員錄

（附、役員、及職員）

昭和二年四月調

貴族院
函
号
冊

本院會員名簿

貴族院
函
号
冊

帝國學士院

役員

院長	正三位勳一等	理學博士	櫻井錠二
幹事	正四位勳二等	文學博士	姉崎正治
第一部部長	正三位勳一等	法學博士 男爵	富井政章
第二部部長	正三位勳一等	醫學博士	佐藤三吉

（昭和二年四月調）

會員（第一部）

正三位勳一等	法學博士	宮崎道三郎 Michisaburo Miyazaki	豐多、千駄ヶ谷五六三	
正三位勳二等	文學博士	坪井九馬三 Kumazo Tsuboi	本郷、向ヶ岡彌生三	（小石川二、五四〇）
從四位	文學博士	南條文雄 Bunyiu Nanjio	豐多、澁谷、青山北七ノ一	
正三位勳一等	法學博士 男爵	富井政章 Masaakira Tomii	牛込、市ヶ谷藥王寺七一	（牛込二、一一二）
正三位勳一等	法學博士	土方寧 Yasushi Hijikata	麹町、一番、四七	（九段四〇五）
從二位勳一等	法學博士	一木喜德郎 Kitokuro Ikki	本郷、駒込曙、七	（小石川七七七）
正三位勳一等	文學博士	上田萬年 Kazutoshi Ueda	小石、鶯籠、一六一	（小石川四、六七六）

正三位勳一等	文學博士	三上參次 Yanji Mikami	本郷、駒込林、一六九	（小石川四、六〇〇）
正三位勳一等	法學博士	金井延 Noburu Kanai	豐多、戸塚源兵衛、一九一	（牛込一八五）
從三位勳二等	法學博士	美濃部達吉 Tatsukichi Minobe	小石、竹早、一二四	（小石川八八〇）
從四位勳四等	文學博士	大槻文彥 Fumihiko Ohotsuki	北豐島、日暮里大字金杉、二五八	
從三位勳二等	文學博士	高楠順次郎 Junjiro Takakusu	小石、關口臺、五	（牛込七八八）
正四位勳二等	法學博士	山崎覺次郎 Kakujiro Yamazaki	小石、原、一二六	（小石川五九〇）
從三位勳二等	文學博士	服部宇之吉 Unokichi Hattori	豐多、戸塚諏訪、一八三	（牛込二、三六〇）
從三位勳二等	法學博士	小野塚喜平次 Kiheiji Onozuka	小石、小日向臺二ノ三六	（小石川二一）

從四位	文學博士	村上專精 Sensho Murakami	小石、林、三一（小石川 三二一）
從三位勳二等	法學博士	織田萬 Yorozu Oda	京都、下鴨松ノ木、一八（上京 一、九九六）
正三位勳二等	文學博士	白鳥倉吉 Kurakichi Shiratori	荏原、上目黑宿山、一、五七五
從三位勳二等	文學博士	松本文三郎 Bunzaburo Matsumoto	京都、上京淨土寺、二（上京 三、五三六）
從三位勳二等	法學博士	春木一郎 Ichiro Haruki	本郷、駒込西片、七
正四位勳二等	法學博士	立作太郎 Sakutaro Tachi	荏原、大崎下大崎、七〇（高輪 一〇九）
從三位勳二等	文學博士	松本亦太郎 Matataro Matsumoto	小石、小日向臺二ノ一五（小石川 三、〇〇五）
從四位勳四等	法學博士	福田徳三 Tokuzo Fukuda	豐多、中野本郷、一〇一（四谷 一、一一九）
正四位勳二等	文學博士	姉崎正治 Masaharu Anesaki	小石、白山御殿一一（小石川 二、〇二六）
從三位勳二等	法學博士	田島錦治 Kinji Tajima	京都、上京吉田神樂岡、三（上京 一、〇一一）
從三位勳二等	文學博士	市村瓚次郎 Sanjiro Ichimura	豐多、戸塚諏訪、八〇
從三位勳三等	文學博士	三宅米吉 Yonekichi Miyake	小石、原、一〇三（小石川 三、一五四）
正三位勳一等	法學博士	横田秀雄 Hideo Yokota	豐多、中野一、五六五（四谷 一、一一三）
正三位勳二等	農學博士 法學博士	新渡戸稲造 Inazo Nitobe	鎌倉町、極樂寺
正五位勳三等		徳富猪一郎 Ichiro Tokutomi	荏原、大森山王、二、八六二（高輪 二）
從四位勳三等	文學博士	狩野直喜 Naoki Kano	京都、上京田中大榎、六ノ一（上京 二四一）

從三位勳二等	文學博士	大塚保治 Yasuji Otsuka	牛込、市ヶ谷砂土原、三ノ八（牛込 三〇二）	
從三位勳一等	法學博士	安達峰一郎 Minéiteiro Adatci	L'Ambassade du Japon Bruxelles, Belgique.	
從三位勳二等	法學博士	山田三良 Saburo Yamada	牛込、辨天、一七二（牛込 一、五九二）	
正四位勳二等	法學博士	加藤正治 Masaharu Kato	麹町、元園、一ノ二（四谷 五、二三八）	
正四位勳三等	法學博士	高野岩三郎 Iwasaburo Takano	大阪、天王寺伶人、二四 大原社會問題研究所	
正四位勳三等	文學博士	吉田靜致 Seichi Yoshida	豐多、千駄ヶ谷九〇二	
正五位勳四等	文學博士	瀧精一 Seiichi Taki	荏原、上大崎西谷、二六六（高輪 二、二七六）	
正四位勳二等	文學博士	桑木嚴翼 Genyoku Kuwaki	牛込、北、三四（牛込 三、三〇九）	
正四位勳三等	法學博士	中田薫 Kaoru Nakada	麻布、笄、一四〇（青山 五、六九九）	
正四位勳三等	法學博士	松本烝治 Georgi Matsumoto	荏原、大井二、九五六（高輪 六〇六）	
正四位勳三等	文學博士	内藤虎次郎 Torajiro Naito	京都、上京、田中野上、二ノ一〇（上京 二、一二〇）	
正四位勳二等	法學博士	清水澄 Tōru Shimizu	四谷、愛住、六三（四谷 二、五七〇）	
從三位勳二等	法學博士	松波仁一郎 Niichiro Matsunami	牛込、中、一七（牛込 七、二三〇）	

會員（第二部）

正四位勳二等	醫學博士	三宅 秀 Hidzu Miyake	小石、竹早、八一	（小石川 二六六）
正三位勳一等	理學博士	櫻井錠二 Joji Sakurai	本郷、駒込曙、一六	（小石川 七五一）
正三位勳一等	理學博士	小藤文次郎 Bunjiro Koto	牛込、二十騎、二	（牛込 二、七二〇）
正三位勳一等	醫學博士	小金井良精 Yoshikiyo Koganei	本郷、駒込曙、一六	（小石川 三、五〇五）
正三位勳一等	理學博士 藥學博士	長井長義 Nagayosi Nagai	豐多、澁谷、青山南、七ノ三	（青山 二六一）
從三位勳一等	工學博士 男爵	古市公威 Koi Furuichi	豐多、下澁谷 六二	（青山 一）
正三位勳一等	理學博士	田中館愛橘 Aikitsu Tanakadate	小石、雜司ヶ谷 一四	（牛込 六、五〇二）

正三位勳二等	醫學博士 男爵	北里柴三郎 Shibasaburo Kitasato	麻布、仲ノ、一九	（芝 二、七〇九）
正三位勳一等	理學博士	藤澤利喜太郎 Rikitaro Fujisawa	鎌倉町、長谷入地	
正三位勳一等	醫學博士	三浦謹之助 Kinnosuke Miura	神田、駿河臺 袋、一五	（神田 二、七一六）
正三位勳二等	理學博士	長岡半太郎 Hautaro Nagaoka	下谷、上野 櫻木、五一	（下谷 五、三五四）
正三位勳一等	理學博士	松村任三 Jinzo Matsumura	本郷、駒込曙、一六	（小石川 六、三七〇）
正三位勳二等	理學博士	中村精男 Kiyoo Nakamura	牛込、南、三三	（牛込 一、五九〇）
正三位勳一等	醫學博士	佐藤三吉 Zankichi Sato	小石、駕籠、二二九	（大塚 六八）
從三位勳一等	理學博士	平山信 Shin Hirayama	麻布、永坂、一	（青山 五、五二四）

正三位勳一等　理學博士　石川千代松　Chiyomatsu Ishikawa　四谷、大番、一九（四谷四〇、二八）

從三位勳二等　醫學博士　伊藤隼三　Hayazo Ito　鳥取市本町一ノ七

正三位勳二等　理學博士　水野敏之亟　Toshinojo Mizuno　京都、上京塔ノ段櫻木町（上京三、四一二）

正三位勳二等　理學博士　池田菊苗　Kikunae Ikeda　麹町、富士見五ノ一六（九段二、一二一）

正三位勳二等　醫學博士　山極勝三郎　Katsusaburo Yamagiwa　本郷、駒込、西片一〇、ろノ一一

正三位勳二等　理學博士　三好學　Manabu Miyoshi　本郷、駒込、西片一〇、にノ一五（小石川一、七三三）

從三位勳二等　醫學博士　荒木寅三郎　Torasaburo Araki　京都、上京、萬里小路近衛上ル官舍（上京一、四〇〇）

正三位勳二等　理學博士　佐々木忠次郎　Chujiro Sasaki　赤坂、青山南六ノ一二〇（青山二五七）

從四位勳三等　理學博士　本多光太郎　Kotaro Honda　仙臺、米ヶ袋鹿ノ子清水、二一（一、六七六）

從三位勳二等　工學博士　高松豐吉　Toyokichi Takamatsu　本郷、駒込西片、一三（小石川九六〇）

正三位勳二等　醫學博士　宮入慶之助　Keinosuke Miyairi　福岡市、樹木屋町二一

正五位勳四等　醫學博士　理學博士　野口英世　Hideyo Noguchi　The Rockefeller Institute for Medical Research, New York City. U. S. A.

正三位勳二等　藥學博士　田原良純　Yoshizumi Tahara　豐多、中野、上町二、六三一（四谷六一一）

從三位勳二等　工學博士　伊東忠太　Chuta Ito　本郷、西片、一〇ヒノ八（小石川一、〇五〇）

從三位勳二等　理學博士　岸上鎌吉　Kamakichi Kishinouye　麹、一番、二九ノ二（四谷二、二一七）

正四位勳二等　農學博士　吉川祐輝　Suketeru Kikkawa　豐多、世田ヶ谷池尻、二一二八（青山八〇七）

正四位勳三等　理學博士
丘　淺次郎　Asajiro Oka
牛込、河田、一七（牛込四、九六〇）

正四位勳二等　理學博士
中村清二　Seiji Nakamura
小石、指ヶ谷五九

從三位勳二等　理學博士
山崎直方　Naomasa Yamasaki
小石、大塚窪、四五（小石川八三六）

從四位勳三等　理學博士
今村明恒　Akitune Imamura
豊多、大久保東大久保、四八（四谷一、三一七）

正四位勳三等　理學博士
木村榮　Hisashi Kimura
岩手縣水澤町緯度觀測所官舍

從三位勳二等　工學博士
俵國一　Kuniichi Tawara
小石、駕籠二三、二

正四位勳二等　理學博士
田丸卓郎　Takuro Tamaru
本郷、駒込曙、一一（小石川七〇一）

正四位勳三等　農學博士
鈴木梅太郎　Umetaro Suzuki
豊多、澁谷、上澁谷一四一（青山一、三九八）

正五位勳三等　理學博士
平山清次　Kiyotsugu Hirayama
麻布、新龍土、一二

正四位勳二等　理學博士
高木貞治　Teiji Takagi
本郷、駒込曙、一三（小石川一、五四三）

從四位勳四等　理學博士
寺田寅彦　Torahiko Terada
本郷、駒込曙一三ろノ五（小石川三、〇九七）

從四位勳四等　理學博士
矢部長克　Hisakatsu Yabe
仙臺、國分、二〇（三一三）

從四位勳三等　理學博士
藤原松三郎　Matsusaburo Fujiwara
仙臺、一二本杉通、一二（二、二四二）

正四位勳二等　理學博士
小川琢治　Takuji Ogawa
京都、上京塔ノ段毘沙門、四六一（上京一、九〇八）

從四位勳三等　理學博士
眞島利行　Riko Majima
仙台、末ヶ袋中坂通、三六（一、八八五）

正四位勳二等　理學博士
池野成一郎　Seiichirô Ikeno
豊多、千駄ヶ谷元原宿、八九

事務職員

書記	佐原茂一	麹町、元衛、一	（牛込三、三九四）
文部屬兼東京商大事務官		文部省構内官舍	
正七、勲七	金坂周次	下谷區、上野公園地、帝國學士院内	
囑託	市橋靜子	豐多、西大久、六九	
同	南雲由松	市外、中野、上ノ原八四	
	津田虎雄	本所、松坂、二ノ一五、津田悠方	

和算史調査部員

囑託	岡本則録	北豐島、西巢鴨、池袋、九四八	

帝室制度史調査部員

	猪俣一三	麹町、飯田、四ノ二〇、佐藤方	
囑託 文學博士	和田英松	市外、千駄ヶ谷、五三八	
同 文學博士	山本信哉	府下、淀橋、角筈七二五	
同	田邊勝哉	赤坂、高樹、一四ノ六號	
同	淺野長武	本郷、向ヶ岡彌生、三	（小石川三、六三五）
同	櫻井茂	本郷、駒込林、八二	
同	諸橋轍次	北豐島、高田雜司ヶ谷、三三八	

同　龍　肅　小石、中富坂一九
Susumu Ryo

同　芝　葛盛　市外下荻窪、二二
Kazumori Shiba

同　黑井大圓　市外、松澤村赤堤四
Daien Kuroi

囑託　藤原猶雪　小石、久堅、三七
Yusetsu Fujiwara

同　高橋隆三　市外、高田、大字雜司ヶ谷、四五二
Ryuzō Takahashi

我國ト歐洲諸國トノ交通史料調査部員

囑託　文學博士　村上直次郎　北豐島、長崎一、〇五七（小石川二、〇七四）
Naojiro Murakami

南朝ノ柱石北畠親房及其ノ子孫ノ事蹟調査部員

囑託　伊木壽一　本郷、駒込千駄木五七
Juichi Iki

昭和二年四月

東京市下谷區上野公園地（兩大師前）

帝國學士院

電話下谷四〇番

私設電話
一番　本院事務室
二番　學研事務室
三番　二階會議室
四番　三階會議室

終